



勝木グループ

Katsuki Group

年報

2021・2022年度

教育推進会議
学術・年報分科会

特定医療法人社団 **勝木会**

公益財団法人 **北陸体力科学研究所**

～地域共創社会の礎～

勝木グループ 代表 勝木保夫

2021 年度から 2022 年度の実績と研究成果をまとめましたのでお届けいたします。この期間は長く続いているコロナ禍の真最中で、全事業所で実務が大変に困難となりました。

特に、コロナ禍初期のクラスター発生時には誹謗中傷を受けたり、感染爆発期には多くのスタッフが出勤できなかつたりして、過去に経験したことの無い大きな苦労の連続でありました。この2年間の実績を記録として留めることは、将来再び大きな社会的困難に遭遇した時の糧になることと思ひ、この業績集は貴重な資料となるでしょう。

さて、私たちの医療・介護・健康増進の分野は、芸術のような感性が主体になる分野と異なり、論理的思考やエビデンスに基づく判断が求められるため、私たちにはプレゼンテーションの力が必要です。

実は、日々行っている業務上の申し送りやサマリー記録は、患者様や利用者様の状態を把握した上で、専門知識をもとに考察し、処置・ケア・支援を行い、その結果を端的に次の勤務者に伝えることを行っているのですが、これらは一つのプレゼンテーションだと思っています。

講演・講義を行うことや、研究発表や論文執筆等のプレゼンテーションは、なかなか時間と労力がかかるため取り組み難いと思われていますが、同じプレゼンテーションである日々の業務の延長に発表や投稿があると考えれば、気になった患者様のことや興味ある課題、積み上げてきた実績などを考察し、まとめることで取り組みやすくなりますね。

研究発表会等でのプレゼンテーションの意義は大きく3つあると思います。1つ目は、課題について最新の知見を詳しく調べ、知識を深めてまとめ上げることができることです。そして「こんなことが分かった」「こんな手法が役に立つ」といった新しい知見を共有することに役立ちます。2つ目は、自分の研究成果に対して助言をいただけることです。第三者の目線から、見落としの指摘や、思い浮かばなかったアイデアをいただけることが、今後の研究や業務の質を高める機会に繋がります。3つ目は、次への活力をいただけることです。研究発表時の議論はもちろんのこと、会場や紙面を通して多くの関係者と交流することで意見交換もでき、次の研鑽に向けた大きな刺激と原動力を得られます。

この業績集は、私たちのこの2年間の振り返りと励ましになります。この活動記録から、次の業績に繋がるプレゼンテーションが活発になることを期待します。今後も私たちは、医療・介護・福祉・健康増進を担うオピニオンリーダーとして、地域共創社会を支えていきたいと思います。

2021・2022年度 年報 巻頭言

2021・2022年度の年報は、COVID-19パンデミック真っ只中における学術活動の記録となりました。製本作業前の年報を確認したところ、英文を含む12編の論文、50の学会発表、創意工夫に満ちた業務活動発表会の記録が収録され、今回も大変内容の濃い年報となっていました。困難な状況においても研究、改善のための歩みを続けるグループ職員の努力と熱意には敬意を表します。

今回の年報には、新型コロナウイルス関連の誹謗中傷、リモート技術、ICTを応用した地域連携、クラスター発生時の対応、発熱外来の運用など、コロナ禍においてどんな困難があったのか、どのような工夫がなされたのかを記したものが含まれています。東日本大震災が発生ときの年報を読んでも感じましたが、困難な時期における活動が収録された年報は、将来大変貴重な記録として役に立つと考えられます。ぜひお読み頂き、グループ職員皆様の記憶にとどめて頂ければ幸いです。

そしてこのような苦境下においても進歩、発展の歩みが続けられていたことが明らかとなりました。この時期に得た苦勞と貴重な経験は、必ずや今後の発展に繋がると思われます。今後勝木グループはどのように進化していくのか、はやくも2023年・2024年度の年報発行が楽しみとなりました。引き続き教育推進会議、学術年報部門では英語論文作成時の添削料、論文掲載料の援助、業務活動発表会の準備、石川県病院協会への推薦等を通して皆様の研究活動を支援していきます。これからも皆で力を合わせて研究および業務改善活動を継続していきましょう。

最後になりましたが、2年に1度収集、刊行作業に協力して下さる教育推進会議、学術年報部門委員の皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。有り難うございました。

教育推進会議、学術年報部門
委員長 池永康規

目 次

勝木会

書籍・論文	9
学会発表	99
講演会講師	105
その他	111
事業所実績	115

北体研（北陸体力科学研究所）

学会発表	123
講演会講師	127
事業所実績	141
業務活動発表会	145

勝木会

書籍・論文

書籍・論文

氏名	共同著者	タイトル	雑誌名	巻号	年月
勝木 達夫		新型コロナウイルス関連の 誹謗中傷事例と当院の対応	金沢大学医学部 第一内科同窓会 誌		2021年
池永 康規		医療福祉地域連携にリモ ート技術を活用する必要性	Journal of CLINICAL REHABILITATIO N	4	2021年4月
池永 康規		排尿コントロールの 再獲得 に向けた回復期 リハビリ テーションの実際	WOC Nursing	10 102	2021年8月
池永 康規		Percutaneous Endoscopic Gastrostomy Reduces Aspiration Pneumonia Rate in Stroke Patients with Enteral Feeding in Convalescent Rehabilitation Wards	Rehabilitation Medicine 2021	16	2021年10月
東 利紀	佐々木賢太郎、 横田文子、高橋祐樹、 黒田一成、浅亮輔、 浅野慶祐、中村立一、 羽場俊広、後藤伸介	高位脛骨骨切り術後1年時 点のJapanese Knee Injury and Osteoarthritis Outcome Score pain に関連する因子 の検討	運動器リハビリ テーション	32 4	2021年12月
東 利紀	横田文子、高橋祐樹、 黒田一成、浅亮輔、 羽場俊広、後藤伸介	変形性膝関節症患者の lateral thrustに関連する骨 形態学的因子と運動学的因 子の検討	運動器リハビリ テーション	33 1	2022年
岡本 義之		トシリズマブ使用中に発生し た腰椎化膿性脊椎炎の1例	中部日本整形外 科災害外科学会	65 2	2022年
黒田 一成		人工膝関節全置換術と高位 脛骨骨切り術によるロコモ改 善効果の比較	中部日本整形外 科災害外科学会	65 1	2022年
黒田 一成		2種類のCT-free navigation systemを用いたTKAの冠状 面コンポーネントの設置精度 の比較 -Knee Align2 vs i- ASSIST-	JOSKAS	47 2	2022年
林 真紀	日本医療ソーシャル ワーカー協会	脳卒中相談窓口マニュアル Version2.0	日本脳卒中学会		2022年
勝木 準		オーラルフレイルは予防でき る！	わらいふ	9	2022年 夏号
勝木 達夫		回復期リハビリテーション病 棟では心疾患のリスク管理・ 疾病管理をどう行うか？	MB Med Reha	276	2022年7月
勝木 達夫		身も心も温まる入浴法	日本循環器協会 心臓とココロに寄 り添う健康情報マ ガジン 「COCORO」	2	2022年 秋冬号

書籍・論文

氏名	共同著者	タイトル	雑誌名	巻号	年月
勝木 達夫	山崎 松美、角地 孝洋	介護支援専門員へのアンケート調査を通して考える地域ぐるみで取り組む心不全再入院予防～小松市心不全再入院予防検討会活動報告第一報～	日本循環器病予防学会誌57(3):204-213、2022	57 3	2022年11月
池永康則		Factors Contributing to Complete Oral Intake in Dysphagic Stroke Patients with Enteral Feeding Tubes in Convalescent Rehabilitation Wards	Rehabilitation Medicine 2023	8	2023年3月
林 真紀	分担執筆	実践事例 ミクロ実践からはじまる組織内外のネットワークづくり	49の実践事例から学ぶ 医療ソーシャルワーカーのための業務マネジメントガイドブック		2023年3月

学会発表

学会発表

年/月/日	氏名	共同研究者	発表演題名または講演題名	学会名(会場)
2021/4/17	田畑 悦子		高位脛骨骨切り術での術中簡易計測器の作成とその評価	第2回北信越knee osteotomy研究会
2021/5/8	岡本 義之		腰椎・下肢変性疾患に対する手術療法のロコモ改善効果～ロコモ度3を含めた検討～	第32回運動器科学会
2021/5/20	黒田 一成		高位脛骨骨切り術後の成績不良因子の検討-人口膝関節全置換術移行症例の解析-	第94回日本整形外科学会学術総会
2021/5/24	垣内 博成		COVID-19クラスターが発生した医療機関職員におけるメンタルヘルス調査	第94回日本産業衛生学会
2021/6/17	東 利紀		Relationship between external knee adduction moment and joint movement during gait after high tibial osteotomy	JOSKAS/JOSSM meeting
2021/6/17	黒田 一成		2種類のCT-free Navigation Systemを用いたTKAの冠状面コンポーネント設置精度の比較	JOSKAS/JOSSM meeting
2021/6/17	田畑 悦子		高位脛骨骨切り術の術中透視で計測する脛骨内方傾斜は、術前計測値を必ずしも一致しない	第13回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
2021/6/19	勝木 達夫		変形性膝関節症に対する心リハの視点を活かした術後急性期集団運動療法の効果	第27回日本心臓リハビリテーション学会総会会長特別企画2
2021/9/1	渡邊 陽祐		人工膝関節全置換術後患者に対する医学的疼痛管理が術後経過に及ぼす影響	リハビリテーション・ケア合同研究大会
2021/9/19	佐分 稲子	感染制御チーム、勝木 達夫、石田 美由紀、道下 孝恒、根上 剛	院内コロナクラスター発生時、感染制御チームは何をしていたか？今後何をすべきか？	第36回日本環境感染学会学術集会
2021/11/13	勝木 達夫		介護支援専門員を対象にした心不全に対するアンケート調査-小松市心不全再入院予防検討会の取り組み-	日本心臓リハビリテーション学会第7回北陸支部地方会
2021/11/18 ~19	中村 英史	山田元、濱田 亜希子、山岸 晴子、霜下 和也、上田 幸生、後藤 伸介	フレイル予防機能強化型センターにおける「通いの場」の再開支援の取り組み	リハビリテーション・ケア合同研究大会 兵庫2021
2021/11/19	上野 弘樹		療法士による介護予防・日常生活支援総合事業単独の新規事業所の開設と地域での取組の効果	リハビリテーション・ケア合同研究大会兵庫2021
2021/11/20	清水 悠暉		スタッフの立ち位置を加味した心臓カテーテル検査における線量測定～現場の視点から～	第13回中部放射線医療技術学術大会

年/月/日	氏名	共同研究者	発表演題名または講演題名	学会名(会場)
2021/11/21	南 明子		インシデントから考える訪問介護の服薬介助—正しい服薬で健やかに在宅生活を続けていくために—	公益社団法人 日本介護福祉士会 第28回日本介護福祉士会全国大会・第19回日本介護学会
2021/11/23	岩佐 和明		大動脈解離術後、脳梗塞発症における外来心臓リハビリテーション介入の経験	日本心臓リハビリテーション学会第7回北陸支部地方会
2021/12/17	東 利紀		高位脛骨骨切り術後の理学療法プログラムと筋力回復の関連性	第9回日本Knee osteotomy forum 大会長指定演題
2021/12/18	東 利紀		高位脛骨骨切り術前後の膝関節内転モーメントの縦断的分析—%MAの変化量の比較—	第1回日本Knee Osteotomy and Joint Preservation
2022/2/4	谷口 博紀		当院看護師による嚥下機能評価導入に向けた取り組み	回復期リハビリテーション病棟協会第39回研究大会in東京
2022/2/27	中村 英史	山崎 晋平、霜下 和也、上田 幸生、後藤 伸介、島 麻美、松野 真弓	フレイル予防機能強化型センターにおける理学療法士の取り組み(第2報)—通いの場の再開支援と実態調査—	第30回石川県理学療法学会大会
2022/2/27	橋本 竣平		体幹・股関節に筋緊張の不均衡を認めた第3腰椎圧迫骨折の一症例	第30回石川県理学療法学会大会
2022/2/27	前橋 佑治		術後201日より介護予防通所サービスで活動・参加にアプローチした大腿骨遠位骨切り術後の症例	第30回石川県理学療法学会大会
2022/3/6	勝木 達夫		短期集中型介護予防サービスを併用して良好な経過を示した開心術後の心臓リハビリテーションの経験	第246回日本内科学会北陸地方会
2022/3/17~	林 真紀	日本医療ソーシャルワーカー協会	治療中断と社会的孤立の防止におけるアウトリーチに関するソーシャルワーク実践の現状と課題	STROKE2022 日本脳卒中学会
2022/4/16	田畑 悦子		高位脛骨骨切り術術中助剤マニュアル~作成までの道のりと現在の活用~	第3回北信越knee osteotomy研究会
2022/6/11	勝木 達夫		短期集中予防サービスを活用する退院後の心臓リハビリテーションアプローチ	第27回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 WEB
2022/6/12	勝木 達夫		行政主導の心不全再入院予防検討会を通じた地域包括ケアの実践	第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 WEB
2022/9/3	北本 淳志		血管年齢を用いた生活習慣改善活動について(第一報)	第63回日本人間ドック学会学術大会
2022/9/16	田畑 悦子		診療放射線技師として挑む高位脛骨骨切り術術中助剤マニュアルの作成	第38回日本診療放射線技師会学術大会

年/月/日	氏名	共同研究者	発表演題名または講演題名	学会名(会場)
2022/9/17	上野 佳美		皮質盲を呈した症例に対し、認識をキーファクターとして介入したことで作業遂行が変化した症例～作業遂行6因子分析ツール(OPAT6)を利用して～	第56回日本作業療法学会
2022/9/17	西田 紘規		脳卒中後のうつ状態に対して情緒面に介入した結果、意欲向上し日常生活自立した事例ー作業遂行6因子分析ツールによる分析ー	第56回日本作業療法学会
2022/9/24	上野 勝也		高齢の人工膝関節全置換術患者における歩行能力と下肢・体幹機能の関連性	第10回運動器理学療法学会
2022/9/24	渡邊 陽祐		外側ウェッジインソールが健康成人に与える影響	第10回運動器理学療法学会
2022/9/24	東 利紀		高位脛骨骨切り術前後のlateral thrustの関連因子は術後各時期に応じて異なる	第10回運動器理学療法学会
2022/9/30	村中 巖太		フレイルを背景とする高齢急性肺炎患者における嚥下障害に対する頸部干渉波刺激装置を併用した理学療法介入の一例	リハビリテーション・ケア合同研究大会 苫小牧2022
2022/10/1	田畑 悦子		高位脛骨骨切り術の術中に透視画面上に乗せて使用する「脛骨内方傾斜計測器」の精度	第2回日本knee osteotomy and joint preservation研究会
2022/10/4	中村 英史	山崎 晋平、霜下 和也、松野 真弓、川上 亜沙美	理学療法士を専従配置した地域包括支援センター「フレイル予防機能強化型センター」の取り組み	第31回全国地域包括・在宅介護支援センター研究大会(神戸)
2022/10/8	坂下 真紀子		シンポジウム:NEXT ONE ”次の”検査室にむけて	第60回中部圏支部医学検査学会
2022/10/23	林 真紀	日本医療ソーシャルワーカー協会	医療ソーシャルワーカーによる心疾患患者の連携に関わる支援業務について	第26回日本心不全学会学術集会
2022/10/29	岩佐 和明		地域と連携していかに心臓リハビリテーションを継続するか	日本心臓リハビリテーション学会 第8回北陸支部地方会(石川県地場産業振興センター)
2022/10/29	勝木 達夫		高齢フレイル心疾患患者の転院リハビリテーション～退院困難事例への支援の実態報告～	第8回日本心臓リハビリテーション学会北陸支部地方会 石川県地場産業振興センター
2022/11/12	臼倉 愛		頸椎術後に舌下神経麻痺を生じた1症例	日本臨床麻酔学会第42回大会国立京都国際会館
2022/11/19	谷口 雅行		CA19-9高値で膵癌との識別を要した自己免疫性膵炎を合併した2型糖尿病の1例	第96回日本糖尿病学会中部地方会

年/月/日	氏名	共同研究者	発表演題名または講演題名	学会名(会場)
2023/1/29	浅 亮輔		超高齢化における大腿骨顆上骨折の治療成績	第51回北陸骨折研究会
2023/2/24	中山 さやか		作業療法士による早朝ADL評価介入の実態と課題	回復期リハビリテーション病棟協会第41回研究大会
2023/2/24	西田 紘規		カンファレンスにおける標準業務工程表活用の利点と課題	回復期リハビリテーション病棟協会第41回研究大会
2023/2/26	橋本 竣平		橋梗塞発症後に歩行障害を呈した症例	第31回石川県理学療法学会大会
2023/2/26	藤田 奈央		右心原性脳梗塞を発症、大殿筋にアプローチし装具角度設定を工夫したことで4点杖移動獲得した症例	第31回石川県理学療法学会大会
2023/2/26	古河 円		通所サービスCを利用し、本人の生きがいである公衆浴場に繋がった一例	石川県理学療法学会大会 (Zoom)
2023/2/26	柳原 和磨		重度Pusher現象を呈した脳卒中片麻痺患者に対する感覚機能へのアプローチの経験	第31回石川県理学療法学会大会

講演会講師

講演会講師

年/月/日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2021/5/16	林 真紀	地域共生社会の実現に向け、医療ソーシャルワーカーの役割を探求する	徳島県医療ソーシャルワーカー協会	Webライブ
2021/5/28	林 真紀	地域連携戦略会議～病棟機能や機関間連携の活用について	日本医療ソーシャルワーカー協会	Webライブ
2021/6/19～	林 真紀	基幹研修Ⅰ生活機能障害とソーシャルワーク	厚労省・日本医療ソーシャルワーカー協会	Webオンデマンド
2021/6/26	林 真紀	ミクロからメゾマクロへソーシャルワーカー倫理綱領の実践適用	鳥取県社会福祉士会	Webライブ
2021/7/1	柿沢 明子	動脈硬化改善セミナー	動脈硬化改善セミナー	ホテルゆのくに
2021/7/6	山岸 晴子	権利擁護について	石川県地域包括支援センター職員研修会	Web
2021/8/18	漆原 真姫	健康管理のおはなし	在職者交流会	
2021/8/25	宮下 高雄	コメディカルスタッフはいかにして術者に尽くせるか	テルモPCIセミナー	Web
2021/9/10	漆原 真姫	回復期における栄養管理	全国回復期リハビリテーション協議会 リハ看護研修会	
2021/9/10	山岸 晴子	高齢者虐待について	石川県地域包括支援センター職員研修会	Web
2021/11/5	勝木 達夫	生活期のリハビリテーションに活かせる心疾患患者のリスク管理とアセスメント	第13回香川県心臓リハビリテーション研究会	Web
2021/12/16	勝木 達夫	フレイル心不全患者を生活期に支えるtips	京都心不全ネットワーク研究会	Web
2022/1/23	中村 英史	地域ケア会議の基本的な理解	石川県理学療法士会 地域ケア会議推進リーダー導入研修会	WebLIVE
2022/1/23	中村 英史	フレイル予防機能強化型センターの業務とサロン支援について	石川県理学療法士会 介護予防推進リーダー導入研修会	WebLIVE
2022/1/29	勝木 達夫	コロナ禍、心不全パンデミック時代にかかりつけ医が「できる」「している」心臓リハビリテーション～変わる対象、変える評価、変えるアプローチ～	石川県健康スポーツ医部会研修会	Web
2022/2/12	林 真紀	基幹研修Ⅲ組織内チームビルドと組織の資源化	日本医療ソーシャルワーカー協会・日本社会福祉士会共催	Webライブ
2022/3/19	上野 弘樹	実践報告 短期集中予防サービス	加賀市	リモート
2022/3/19	上野 弘樹	市町事業に関わるリハビリテーション専門職育成研修	石川県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡会主催	リモート
2022/4/2	勝木 達夫	回復期リハビリテーション病棟で行う心臓リハビリテーション	回復期リハビリテーション病棟協会主催医師研修会	Web録音
2022/6/1	高田 裕子	タバコを知ろう やめ時はいいつ？	小松ウオール(株)禁煙セミナー	小松ウオール(株)
2022/6/2	高田 裕子	タバコを知ろう やめ時はいいつ？	小松ウオール(株)禁煙セミナー	小松ウオール(株)
2022/6/6	北村 祥子	健診結果の見方と受診科	株式会社中東健康セミナー	株式会社中東

年/月/日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2022/6/16	林 真紀	地域連携の実際と診療報酬改定(医療機能)から見える課題	安宅板津高齢者総合相談センター地域連絡会	あたかの郷
2022/6/23	岡本 義之	骨粗鬆症治療薬の使い方	やわた生活習慣病セミナー	やわたメディカルセンター
2022/6/25	勝木 達夫	地域心臓リハビリテーション 高齢フレイル心不全パンデミック時代に急性期から生活期までをつなぐ地域心臓リハビリテーション～急性期を脱したその後に、変わる対象、変える評価、変えるアプローチ～	第144回日本循環器学会北陸地方会教育講演	金沢大学医学部 十全講堂
2022/6/27～	林 真紀	基幹研修 I 生活機能障害とソーシャルワーク	厚労省・日本医療ソーシャルワーカー協会	Webオンデマンド
2022/7/26	柿沢 明子	ストレスとセルフケア	こころとカラダの健康セミナー	金沢市保健所
2022/7/27	柿沢 明子	ストレスとセルフケア	こころとカラダの健康セミナー	七尾サンライフプラザ
2022/7/27	高田 裕子	生活習慣病の予防～生活習慣病の予防とメタボリックシンドローム～	こころとカラダの健康セミナー	(株)寺田鉄工
2022/7/28	柿沢 明子	ストレスとセルフケア	こころとカラダの健康セミナー	小松商工会議所
2022/7/28	高田 裕子	生活習慣病の予防～生活習慣病の予防とメタボリックシンドローム～	こころとカラダの健康セミナー	小松商工会議所
2022/7/29	柿沢 明子	ストレスとセルフケア	こころとカラダの健康セミナー	金沢市保健所
2022/7/29	高田 裕子	生活習慣病の予防～生活習慣病の予防とメタボリックシンドローム～	こころとカラダの健康セミナー	金沢市保健所
2022/8/23	勝木 達夫	地域包括ケアを考えた心臓リハビリテーション 高齢フレイル心不全パンデミック時代に心不全リハビリテーションから考えるそれぞれの病院の役割	循環器疾患未来投資フォーラム(ベリンガーインゲルハイム)	WebLIVE
2022/8/24	宮本 由香里	在宅ケアが必要な小児について	石川県看護協会 研修会	金沢
2022/8/28	勝木 達夫	心不全再入院予防の問題点と対策、薬物療法も含めて	JMAPサマーセミナー	東京(WebLIVE)
2022/9/15	勝木 達夫	病院と在宅をつなぐ心臓リハビリテーション入門編 1	石川県心不全メディカルネットワーク	WebLIVE
2022/9/16	谷口 雅行	当院における糖尿病腎症重症化予防の現状と課題	ケレンディア錠新発売記念講演会in南加賀	WEB
2022/9/28	岡本 義之	当院の骨粗鬆症サポートチームの現状	骨粗鬆症治療セミナー	
2022/10/1～	林 真紀	実践者レベル I 多職種協働(チームアプローチ)の理解	日本介護支援専門員協会	Webオンデマンド

年/月/日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2022/10/14	勝木 達夫	医療職として病院で働くということ	大聖寺高等学校インターンシップ	WebLIVE
2022/10/15	宮本 由香里	実践的なBCP作成を目指して	石川県医療在宅ケア事業団 研修会	オンライン
2022/10/28	岩佐 和明	慢性疾患(心不全)に対する理学療法と生活支援のポイント	石川県理学療法士会	WebLIVE
2022/11/12	林 真紀	社会福祉士が知っておくといよい知識 医療費負担の軽減と意思決定支援	石川県社会福祉士会・ばあとなあ(成年後見人)石川県支部合同研修	WEBライブ
2022/11/17	勝木 達夫	病院と在宅をつなぐ心臓リハビリテーション入門編 2	石川県心不全メディカルネットワーク	WebLIVE
2022/12/1	高畠 朋子	スポーツ選手の食事	小松市スポーツ賞授与式講演	小松市民センター
2022/12/8	中村 英史	理学療法士を専従配置した地域包括支援センター「フレイル予防機能強化型センター」の取り組み	令和4年度東海北陸ブロック地域包括・在宅介護支援センター研究協議会「石川大会」	WebLIVE(ZOOM)
2023/1/14	林 真紀	基礎研修 生活機能障害とソーシャルワーク	石川県医療ソーシャルワーカー協会	Webライブ・YouTube
2023/1/29	古河 丈治	小松市短期集中予防サービスについて	石川県理学療法士会 介護予防推進リーダー導入研修会	WebLIVE(ZOOM)
2023/2/15	上野 弘樹	学童期にできる病気やけがの予防について	加賀市立橋立小学校教育講演会	加賀市立橋立小学校
2023/2/18	漆原 真姫	これだけは知っておきたい栄養ケアプロセス	石川県栄養士会 臨床栄養研修会	石川県地場産業センター
2023/2/23	林 真紀	基幹研修Ⅲ組織内チームビルドと組織の資源化	日本医療ソーシャルワーカー協会・日本社会福祉士会共催	Webライブ
2023/2/28	高田 裕子	動脈硬化と生活習慣病～予防のための生活習慣～	株式会社寺田鉄工健康セミナー	(株)寺田鉄工
2023/3/4	藤岡 はるか	社会人3年目、仕事はMSWです	学生さんのための医療ソーシャルワーク講座	WEB
2023/3/6～3/19	勝木 達夫	心不全・心不全のリハビリテーション	高岡地域リハビリテーション多職種連携研修会	Web録音(YouTube配信)
2023/3/19	林 真紀	STROKE2023 脳卒中相談窓口多職種講習会「相談窓口の実際」	日本脳卒中学会	パシフィコ横浜・Webライブ・オンデマンド
2023/3/20～	林 真紀	実践者レベルⅡ 多職種協働(チームアプローチ)の理解	日本介護支援専門員協会	Webオンデマンド・ライブ演習
2023/3/22	朝倉 大貴	最近の糖尿病薬物治療について	こまつ糖尿病連携セミナー	WEB

その他

その他

年/月/日	氏名	共同研究者	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2021/6/6	勝木 達夫		座長	第57回日本循環器病予防学会一般演題(口演)	オンライン
2021/6/25	勝木 達夫		座長	南加賀生活習慣病Webセミナー	小松市医師会、協和キリン
2021/7/8	勝木 達夫		循環器系統講義1	小松大学講義	小松大学
2021/7/15	勝木 達夫		循環器系統講義2	小松大学講義	小松大学
2021/7/16	勝木 達夫		座長	心不全連携フォーラム	ノバルティス、大
2021/10/27	勝木 達夫		座長	南加賀心臓リハビリテーションセミナー	小野、アストラゼネカ
2021/11/13	勝木 達夫		座長	日本心臓リハビリテーション学会第7回北陸支部地方会教育講演III	オンライン
2022/6/18	林 真紀		座長	石川県医療ソーシャルワーカー協会2022年度総会・記念講演「これからの時代における医療ソーシャルワーカーに伝えたい」	YouTubeライブ・オンデマンド配信
2022/7/7	勝木 達夫		大学講義	循環器系統講義1	公立小松大学保健医療学部看護学科 循環器系統
2022/7/14	勝木 達夫		大学講義	循環器系統講義2	公立小松大学保健医療学部看護学科 循環器系統
2022/9/22	勝木 達夫		大学講義	心不全患者の心臓リハビリテーションを取り巻く諸問題	金沢大学
2022/10/30	林 真紀		座長	北信越医療ソーシャルワーク研究会 シンポジウム「いきるを共に考える」	YouTubeライブ・オンデマンド配信
2022/12/1	勝木 達夫		座長	石川心臓弁膜症Webセミナー	Webエドワーズライフサイエンス
2023/2/26	中村 英史		座長	第31回石川県理学療法学術大会	オンライン

事業所実績

事業所実績(抜粋)

やわたメディカルセンター

患者数	2021年度	2022年度
延外来患者数	104,775人	105,657人
延入院患者数	64,637人	60,352人
新入院患者数	3,656人	3,494人
病床平均稼働率	88.5%	82.8%
病床平均稼働率(3F)	88.1%	86.3%
病床平均稼働率(4F)	92.5%	81.5%
病床平均稼働率(5・6F)	86.6%	81.8%
平均在院日数(3F)	54.0日	53.7日
平均在院日数(4F)	20.3日	17.3日
平均在院日数(5・6F)	10.3日	10.9日

紹介・逆紹介	2021年度	2022年度
紹介患者数	3,901人	3,829人
紹介入院患者数	1,125人	1,103人
逆紹介患者数	5,640人	5,541人
放射線検査紹介数	699件	740件

手術件数	2021年度	2022年度
手術件数	1,314件	1,305件

救急・時間外受入	2021年度	2022年度
救急患者数(救急車除く)	1,745人	2,272人
救急車搬送患者数	716人	616人
入院になった患者数	651人	570人

放射線検査件数	2021年度	2022年度
MRI	4,365件	3,924件
CT	9,605件	9,082件
ANGIO	372件	282件
エコー	2,715件	2,698件
内視鏡	3,185件	3,068件

リハビリテーション実施数	2021年度	2022年度
患者数(外来)	5,924人	5,876人
患者数(入院)	70,762人	67,645人
単位数(入院)	11,623単位	11,698単位
単位数(入院)	189,169単位	175,686単位

薬剤関係	2021年度	2022年度
病棟服薬指導件数	2,770件	2,511件
DPC病棟 服薬指導件数	2,009件	1,480件
DPC病棟 退院時指導	420件	177件
外来化学療法1-A 件数	103件	104件
外来化学療法1-B 件数	1,020件	920件
無菌製剤処理料	108件	104件
後発医薬品割合	87.1%	87.7%
検体・生理検査関係	2021年度	2022年度
外来採血者数	34,383人	35,188人
血管エコー件数	784件	889件
心臓エコー件数	2,144件	2,110件
PSG/タイトレーション件数	245件	213件
栄養関係	2021年度	2022年度
栄養指導件数	2,325件	2,258件
NST介入患者数	56人	58人
在宅サービス		
Aスタジオ	2021年度	2022年度
延利用者数	10,205人	7,993人
1日利用者数	39.7人	31.2人
Bスタジオ	2021年度	2022年度
延利用者数	8,921人	9,978人
1日利用者数	28.6人	31.9人
健康スタジオ加賀温泉駅前	2021年度	2022年度
延利用者数	2,772人	4,712人
1日利用者数	10.8人	18.4人
ヘルパーステーション	2021年度	2022年度
訪問回数	6,338回	5,551回
1日平均訪問回数	17.3回	15.4回
居宅介護支援	2021年度	2022年度
月平均利用者数	196.3人	198.0人

健診センター

健康診断	2021年度	2022年度
来館型	3,850人	4,340人
出向型	1,687人	1,702人
特定健診	1,556人	1,634人

健康ドック	2021年度	2022年度
半日・1日ドック	2,059人	2,146人
宿泊ドック	225人	222人
協会けんぽドック	5,082人	5,715人
生活習慣病予防健診	1,015人	1,047人
脳ドック	611人	637人

フォローアップ	2021年度	2022年度
精密検査	1,046人	1,233人
労災保険二次	177人	183人

芦城クリニック	2021年度	2022年度
1日平均患者数	76.3人	79.0人
1日平均初診	6.8人	7.1人
1日平均再診	69.5人	71.4人
1日平均リハ患者数	30.8人	31.8人
リハ実施単位数	13,754単位	14,656単位
健康スタジオ利用者数	2,240人	2,542人
丸内・芦城高齢者総合相談センター		
要支援ケアプラン作成数	1,992件	2,032件
相談件数	1,003件	1,473件

訪問看護ステーションリハケア芦城

介護保険	2021年度	2022年度
訪問看護利用者数	1,123人	1,155人
訪問回数	4,456回	4,550回
訪問リハ利用者数	1,033回	1,077人
訪問回数	3,519回	3,825回

医療保険	2021年度	2022年度
訪問看護利用者数	746人	808人
訪問回数	4,925回	5,057回
訪問リハ利用者数	678回	725人
訪問回数	2,373回	2,743回

北体研

(北陸体力科学研究所)

学会発表

学会発表

年月日	氏名	共同研究者	発表演題名または講演題名	学会名(会場)
2021/6/6	竹内 寛子		20、30歳代女性における隠れ肥満の実態と体格分類ごとの体力測定結果	第33回日本体力医学会北陸地方会(オンライン)
2021/9/7	川向 哲弥		幼児における疾走速度と下肢三関節動作との関係	第71回日本体育・スポーツ・健康学会(オンライン)
2021/9/11	釜場 なる子		健康増進施設利用者の緊急事態宣言発令に伴う臨時休館時の生活習慣に関する調査結果について	第40回日本臨床運動療法学会学術集会(オンライン)
2021/9/17	川向 哲弥		運動習慣のある女性高齢者におけるハイブリッドトレーニング装置を用いた歩行トレーニングの即時効果	第76回日本体力医学会大会(オンライン)
2021/10/23	川向 哲弥		運動習慣のある女性高齢者におけるハイブリッドトレーニング装置を用いた歩行トレーニングが最大歩行速度に及ぼす影響	第8回日本転倒予防学会(オンライン)
2021/11/21	武部 真央	村山 孝之	プレッシャーがハードル課題随行時の空間知覚と運動パフォーマンスに及ぼす影響	北陸スポーツ・体育学会研究会・学術大会(金沢市文化センター)
2022/6/5	川向 哲弥		covid-19流行下における健康・体づくり事例報告(シンポジウム)	第34回日本体力医学会北陸地方会(富山地鉄ホテル)
2022/6/5	木下 直樹		石川県のジュニアアスリートの見る力を知る	第34回日本体力医学会北陸地方会(富山地鉄ホテル)
2022/8/31	川向 哲弥		男子高校生カヌーカヤック競技者におけるパフォーマンステストの縦断的調査	第72回日本体育・スポーツ・健康学会(オンライン)
2022/9/3	東 香里		健康増進施設と健診施設との連携によるメタボリック症候群改善への取り組み	第41回日本臨床運動療法学会学術集会(帝京大学;オンライン発表)
2022/9/21	川向 哲弥		高齢者を対象としたeスポーツによる即時的な認知機能への影響	第77回日本体力医学会大会(オンライン)
2022/10/9	釜場 なる子		新型コロナによる臨時休館時の生活調査結果と健康増進施設利用状況について	第30回日本介護福祉学会大会(オンライン)
2022/12/6	中崎 衣美	高島 朋子、稲山 貴代	Associations of a balanced diet combining staple food, main dish, and side dish and with eating behavioral outcome expectations and self-efficacy in adolescent and young adult athletes.	22nd IUNS-ICN(東京国際フォーラム;オンライン発表)

講演会講師

講演ほか

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2021年度		健康増進施設における標準的な運動プログラム検証のためのランダム化比較試験	厚生労働省大規模実証事業	
2021年度		ジュニア選手の競技力向上を目的に「視覚能力」の測定および動体視力や眼と手の協応運動のトレーニング	2020年度公益財団法人ノエビアグリーン財団助成金事業	
2021/4/1	中崎 衣美	石川県水泳協会ショートキャンプ栄養講義	石川県水泳協会ショートキャンプ	金沢プール
2021/4/2	中崎 衣美	小松電子株式会社新人研修 栄養講話(ヘルシー弁当付き)	小松電子新人研修	小松電子株式会社
2021/4/12、19、26、5/10、17、24	三井 外喜和	保健体育講義	小松准看護学院	小松准看護学院
2021/4/15~8/5	中崎 衣美	スポーツ栄養学講義	金沢星稜大学(非常勤講師)	金沢星稜大学
2021/4/18	中崎 衣美	石川県水泳協会競泳ジュニア練習会栄養講習	石川県水泳協会競泳ジュニア練習会栄養講習	JSS金沢駅西スイミングスクール
2021/4/19、4/22	三井 外喜和	健康経営について	小松ウォール工業株式会社新人研修	ダイナミック
2021/4/24	中崎 衣美	健康管理の重要性	石川県トラック協会初任運転者指導講習会	石川県トラック会館2階研修室
2021/4/25	菊田 泰子	いしかわスポーツレクリエーション交流大会ヨガ講座	いしかわスポーツレクリエーション交流大会ヨガ講座	いしかわ総合スポーツセンター
2021/5/26	達 優起	有限会社和倉炊飯	令和3年度職場における健康出前講座	有限会社和倉炊飯
2021/5/28	達 優起	石川サンケン株式会社志賀工場出前講座(筋力アップ)	石川サンケン出前講座(運動指導)	石川サンケン株式会社(志賀工場)
2021/5/28	中井 詔子	株式会社飯田計算センター 快適な睡眠で仕事のパフォーマンスを高めよう	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社飯田計算センター
2021/5/28	達 優起	石川サンケン株式会社(志賀工場) 腰痛肩こり予防のためのストレッチ(イス編)	令和3年度職場における健康出前講座	石川サンケン株式会社(志賀工場)
2021/5/31~9/27	中崎 衣美	食生活と栄養講義	小松准看護学院	小松准看護学院
2021/6/2、6/28、12/3、12/10、1/21、2/4、2/17,3/11	名倉 紀子	アスリートヨガ	2021年度小松大谷高校部活動サポート	小松大谷高校
2021/6/3	東 香里	株式会社石名坂製作所 心身リラックスヨガ(床編)	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社石名坂製作所
2021/6/11	山口 裕子	株式会社アルパイン設計事務所 腰痛肩こり予防のための軽運動(イス編)	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社アルパイン設計事務所
2021/6/22	瓦焼 友美	株式会社吉田倉庫 腰痛肩こり予防のための軽運動(床編)	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社吉田倉庫
2021/6/23	中井 詔子	ライフプランニングセンター 株式会社 快適な睡眠で仕事のパフォーマンスを高めよう	令和3年度職場における健康出前講座	ライフプランニングセンター株式会社

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2021/6/24 ~3/31	大久保祐一	スポーツ塾指導(13回)、保育士向け研修(2回)会、事業の分析評価	すえさみこども園2021年度すえさみスポーツ塾	すえさみこども園
2021/6/25	三井外喜和	コマツユニオン新人研修	コマツユニオン新人研修	ダイナミック
2021/7/3	中井 詔子	株式会社ツキボシ 快適な睡眠で仕事のパフォーマンスを高めよう	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社ツキボシ
2021/7/7	伴場 若菜	株式会社ほくつう 心身リラックスヨガ講座(イス編)	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社ほくつう
2021/7/7	竹腰 清亮	株式会社佐々木塗装工業 体成分測定機を用いた測定と改善のための運動	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社佐々木塗装工業
2021/7/7	達 優起	株式会社佐々木塗装工業 体成分測定機を用いた測定と改善のための運動	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社佐々木塗装工業
2021/7/8	大久保 祐一	コンバット(法人特典)	株式会社北菱健康づくり事業	株式会社北菱
2021/7/10	中崎 衣美	日生運輸株式会社 ビジネスパーソンのための栄養学	令和3年度職場における健康出前講座	日生運輸株式会社
2021/7/10	中井 詔子	藤井空調工業株式会社 快適な睡眠で仕事のパフォーマンスを高めよう	令和3年度職場における健康出前講座	藤井空調工業株式会社
2021/7/10	中井 詔子	藤井空調工業株式会社 快適な睡眠で仕事のパフォーマンスを高めよう	令和3年度職場における健康出前講座	藤井空調工業株式会社
2021/7/10	伴場 若菜	馬場化学工業株式会社 腰痛肩こり予防のためのストレッチ(イス編)	令和3年度職場における健康出前講座	馬場化学工業株式会社
2021/7/15	竹腰 清亮	ピノキオクラブ 腰痛肩こり予防のための軽運動(床編)	令和3年度職場における健康出前講座	ピノキオクラブ
2021/7/16	達 優起	石川サンケン株式会社(堀松工場) 腰痛肩こり予防のためのストレッチ(イス編)	令和3年度職場における健康出前講座	石川サンケン株式会社(堀松工場)
2021/7/31	菊田 泰子	日本労働組合総連動会 石川連合会 心身リラックスヨガ(イス編)	令和3年度職場における健康出前講座	金沢勤労者プラザ
2021/8/2	伴場 若菜	村井建築株式会社 筋力サーキットトレーニング	令和3年度職場における健康出前講座	村井建築株式会社
2021/8/5	竹内 寛子	株式会社北菱 心身リラックスヨガ講座(イス編)	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社北菱
2021/8/18	吉田 純	丸文通商株式会社出前講座 腰痛肩こり予防体操	丸文通商株式会社出前講座(法人特典での実施)	丸文通商株式会社
2021/8/30	中崎 衣美	株式会社飯田計算センター ビジネスパーソンのための食事・栄養学	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社飯田計算センター
2021/9/6	中井 詔子	株式会社宮西計算センター 快適な睡眠で仕事のパフォーマンスを高めよう	令和3年度職場における健康出前講座	ダイナミック(オンライン)
2021/9/8	森 崎貴志	柔軟性を高めるための講話と実技	月津小学校運動指導	月津小学校
2021/9/9	達 優起	筋力トレーニング	株式会社北菱健康づくり事業	株式会社北菱
2021/9/17	達 優起	北菱電興株式会社 測定機器を用いた体力測定と体力増強のための運動	令和3年度職場における健康出前講座	北菱電興株式会社

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2021/9/17	中井 詔子	株式会社なかの林業ビジネスパーソンのための食事・栄養学	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社なかの林業
2021/9/21 ~3/1	中崎 衣美	スポーツ栄養学講義	北陸大学(非常勤講師)	北陸大学
2021/9/24	竹内 寛子	シンプルヨガ&ピラティス	石川サンケン株式会社志賀工場運動講座	石川サンケン株式会社(志賀工)
2021/9/24	伴場 若菜	株式会社オンワード技研 心身リラックスヨガ講座(イス編)	令和3年度職場における健康出前講座	ダイナミック(オンライン)
2021/9/24	伴場 若菜	株式会社オンワード技研 心身リラックスヨガ講座(イス編)	令和3年度職場における健康出前講座	ダイナミック(オンライン)
2021/10/4	吉田 純	株式会社山岸建築(設備)設計事務所 腰痛肩こり予防のためのストレッチ(イス編)	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社山岸建築(設備)設計事務所
2021/10/6	郷 真里奈	小松ウォール工業株式会社 心身リラックスヨガ講座(イス編)	令和3年度職場における健康出前講座	小松ウォール工業株式会社
2021/10/8、 10/15、 10/29	達 優起	体組成測定運動指導	小松社会保険委員会健康セミナー	ダイナミック、加賀商工会議所、寺井地区公民館
2021/10/8	郷 真里奈	講師派遣イスヨガ	小松ウォール工業株式会社講師派遣	小松ウォール工業株式会社
2021/10/8	竹腰清亮	藤井空調工業株式会社 腰痛肩こり予防のためのストレッチ(イス編)	令和3年度職場における健康出前講座	藤井空調工業株式会社
2021/10/8	竹腰 清亮	藤井空調工業株式会社 腰痛肩こり予防のためのストレッチ(イス編)	令和3年度職場における健康出前講座	藤井空調工業株式会社
2021/10/8	中崎 衣美	金沢シールビジネスパーソンのための食事・栄養学	令和3年度職場における健康出前講座	金沢シール
2021/10/12	中崎 衣美	講話「腸活しよう」	丸文通商株式会社 女性日帰りセミナー	金沢港クルーズターミナル
2021/10/12	中井 詔子	実習「自律訓練法」	丸文通商株式会社 女性日帰りセミナー	金沢港クルーズターミナル
2021/10/12	中井 詔子	講話「女性の健康」	丸文通商株式会社 女性日帰りセミナー	金沢港クルーズターミナル
2021/10/12	竹内 寛子	リラックスヨガ	丸文通商株式会社 女性日帰りセミナー	金沢港クルーズターミナル
2021/10/14	竹腰 清亮	コンバット	株式会社北菱健康づくり事業	株式会社北菱
2021/10/20	達 優起	弁護士法人 兼六法律事務所 心身リラックスヨガ講座(床編)	令和3年度職場における健康出前講座	弁護士法人兼六法律事務所
2021/10/23	中井 詔子	小松鋼機株式会社 快適な睡眠で仕事のパフォーマンスを高めよう	令和3年度職場における健康出前講座	小松鋼機株式会社
2021/10/27	中井 詔子	小松商工会議所主催「健康経営セミナー」事例発表(セミナーの一部を担当)	小松商工会議所主催「健康経営セミナー」事例発表	小松商工会議所
2021/10/27	達 優起	石川サンケン株式会社(内浦工場) 腰痛肩こり予防のためのストレッチ(イス編)	令和3年度職場における健康出前講座	石川サンケン株式会社(内浦工場)

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2021/10/28	吉田 純	第一電機工業株式会社 腰痛肩こり予防のための軽運動(イス編)	令和3年度職場における健康出前講座	ダイナミック(オンライン)
2021/11月	中崎 衣美、釜場 なる子	小松製作所健康保険組合ヘルスアップセミナー	小松製作所健康保険組合ヘルスアップセミナー	ダイナミック(オンライン)
2021/11/6 ~12/25	中井 詔子	睡眠講演	公立学校共済組合石川支部「令和3年度女性健康講座」	
2021/11/6 ~12/25	名倉 紀子	ヨガ	公立学校共済組合石川支部「令和3年度女性健康講座」	
2021/11/11	小池 綾子	「コロナ禍で児童の体力低下を防ぐには」講話と実技	小松市立符津小学校講師派遣	小松市立符津小学校
2021/11/12	達 優起	株式会社ジェスクホリウチ 筋力・サーキットトレーニング	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社ジェスクホリウチ
2021/11/14	中崎 衣美	栄養講話「スポーツと栄養」	日本ドッジボール協会指導員講習会	いしかわ総合スポーツセンター
2021/11/14	竹腰 清亮	コンバット	株式会社北菱健康づくり事業	株式会社北菱
2021/11/18	越原 祥栄	ウォーミングアップと筋トレ	寺井高校部活動サポート	寺井高校体育館
2021/11/18 ~全5回		ライオンパワー株式会社講師派遣	ライオンパワー株式会社講師派遣	ライオンパワー株式会社
2021/11/18	達 優起	株式会社ヤマニ 腰痛肩こり予防のための軽運動(イス編)	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社ヤマニ
2021/11/22	川口 知江	株式会社ソフトバンク金沢 腰痛・肩こり予防のための軽運動(イス編)	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社ソフトバンク金沢
2021/11/24	伴場 若菜	筋コン&かんたんエアロ	石川サンケン株式会社志賀工場運動講座	石川サンケン株式会社(志賀工)
2021/11/24	中井 詔子	株式会社吉田倉庫 快適な睡眠で仕事のパフォーマンスを高めよう	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社吉田倉庫
2021/11/26 、11/30、 12/6、 12/10、 12/14	東 香里	ウォーキング講座5回	白山市「健康ウォーキング講座」運営業務	松任総合運動公園体育館
2021/11/26	達 優起	サクラパックス株式会社石川本部 測定機器を用いた体力測定と体力増強のための運動	令和3年度職場における健康出前講座	サクラパックス株式会社石川本部
2021/11/29	中崎衣美	石川県学校生活協同組合ビジネスパーソンのための栄養学	令和3年度職場における健康出前講座	石川県学校生活協同組合
2021/11/30	達 優起	株式会社石名坂製作所 体成分測定器を用いた測定と改善のための運動	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社石名製作所
2021/12/6	中井詔子	健康経営講話	丸文通商株式会社男性健康セミナー(日帰り)	長野市オリンピック記念アリーナエムウェーブ
2021/12/6	達 優起	腰痛肩こりの予防と改善	丸文通商株式会社男性健康セミナー(日帰り)	長野市オリンピック記念アリーナエムウェーブ

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2021/12/6	中井 詔子	効果的で質の高い睡眠とは	丸文通商株式会社男性健康セミナー(日帰り)	長野市オリンピック記念アリーナエムウェーブ
2021/12/6	中正二郎	健康づくりに効果的な運動とは	丸文通商株式会社男性健康セミナー(日帰り)	長野市オリンピック記念アリーナエムウェーブ
2021/12/6	達 優起	筋力・サーキットトレーニング	丸文通商株式会社男性健康セミナー(日帰り)	長野市オリンピック記念アリーナエムウェーブ
2021/12/6	中崎 衣美	働き盛りの食生活のポイント	丸文通商株式会社男性健康セミナー(日帰り)	長野市オリンピック記念アリーナエムウェーブ
2021/12/8	竹腰 清亮	社会福祉法人郷こども園 腰痛・肩こり予防のための軽運動(床編)	令和3年度職場における健康出前講座	社会福祉法人郷こども園
2021/12/8	達 優起	社会福祉法人すずらん保育園 体成分測定機を用いた測定と改善のための運動	令和3年度職場における健康出前講座	社会福祉法人すずらん保育園
2021/12/9	伴場 若菜	村井建築株式会社 筋力・サーキットトレーニング	令和3年度職場における健康出前講座	村井建築株式会社
2021/12/10	三井 外喜和	健康経営講話	小松シヤリング株式会社講師派遣	小松シヤリング株式会社小松工場
2021/12/10	山口 裕子	イスヨガ	小松シヤリング株式会社講師派遣	小松シヤリング株式会社小松工場
2021/12/10	郷 真里奈	イスヨガ	小松シヤリング株式会社講師派遣	小松シヤリング株式会社能美工場
2021/12/10	瓦焼 友美	イスヨガ	小松シヤリング株式会社講師派遣	小松シヤリング株式会社小松工場
2021/12/10	郷 真里奈	イスヨガ	小松シヤリング株式会社講師派遣	小松シヤリング株式会社能美工場
2021/12/11	越原 祥栄	トレーニングセミナー	2021年度石川県バドミントン協会フィジカル強化セミナー	いしかわ総合スポーツセンター
2021/12/11	菊田 泰子	アスリートヨガ	2021年度石川県バドミントン協会フィジカル強化セミナー	いしかわ総合スポーツセンター
2021/12/11	中井 詔子	日生運輸株式会社 快適な睡眠で仕事のパフォーマンスを高めよう	令和3年度職場における健康出前講座	日生運輸株式会社
2021/12/12	中崎 衣美	いしかわ科学トレーニング特別強化事業女性アスリートコンディショニングセミナー栄養講話	いしかわ科学トレーニング特別強化事業女性アスリートコンディショニングセミナー	いしかわ総合スポーツセンター
2021/12/13	川崎 彰悟	有限会社山本製材 測定機器を用いた体力測定と体力増強のための運動	令和3年度職場における健康出前講座	有限会社山本製材
2021/12/13	中崎 衣美	有限会社吉田製作所 ビジネスパーソンのための食事・栄養学	令和3年度職場における健康出前講座	有限会社吉田製作所
2021/12/14	中井 詔子	株式会社北都鉄工 快適な睡眠で仕事のパフォーマンスを高めよう	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社北都鉄工
2021/12/14	達 優起	有限会社飛鳥観光(ホテルアイ) 心身リラックスヨガ講座(床編)	令和3年度職場における健康出前講座	有限会社飛鳥観光(ホテルアイ)

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2021/12/15	中井 詔子	特定非営利活動法人プウブ 快適な睡眠で仕事のパ フォーマンスを高めよう	令和3年度職場における 健康出前講座	特定非営利活動 法人プウブ
2021/12/24	山口 裕子	小松シヤリング(小松工場) 心身リラックスヨガ(イス編)	令和3年度職場における 健康出前講座	小松シヤリング株 式会社(小松工 場)
2022/1/6	東 香里	丸文通商株式会社運動教室(オンライン)シンプルヨガ	丸文通商株式会社運動 教室(オンライン)	ダイナミック(オン ライン)
2022/1/8	中崎 衣美	越屋メディカルケア株式会社 ビジネスパーソンのための 食事・栄養学	令和3年度職場における 健康出前講座	越屋メディカルケ ア株式会社
2022/1/12	中井 詔子	株式会社小山商店 快適な 睡眠で仕事のパフォー マンスを高めよう	令和3年度職場における 健康出前講座	株式会社小山商 店
2022/1/13	達 優起	特別養護老人ホームあての 木園 腰痛肩こり予防のため の軽運動(イス編)	令和3年度職場における 健康出前講座	特別養護老人 ホームあての木 園
2022/1/16	中崎 衣美	栄養講義	スポーツナース講習会	木島病院
2022/1/18	吉田 純	サンデック株式会社 腰痛肩 こり予防のための軽運動(イ ス編)	令和3年度職場における 健康出前講座	サンデック株式 会社
2022/1/19	中崎 衣美	株式会社コクブ ビジネス パーソンのための食事・栄 養学	令和3年度職場における 健康出前講座	株式会社コクブ
2022/1/21	竹腰 清亮	介護老人保健施設百寿苑 体成分測定機を用いた測定 と体力増強のための運動	令和3年度職場における 健康出前講座	介護老人保健施 設百寿苑
2022/1/21	竹内 寛子	ピノキオクラブ 心身リラッ クヨガ講座(床編)	令和3年度職場における 健康出前講座	ピノキオクラブ
2022/1/26	中井 詔子	小松ガス株式会社 快適な 睡眠で仕事のパフォー マンスを高めよう	令和3年度職場における 健康出前講座	小松ガス株式 会社
2022/1/26	吉田 純	株式会社清幸 腰痛肩こり予 防のための軽運動	令和3年度職場における 健康出前講座	株式会社清幸
2022/1/31	川崎 彰悟	石川サンケン株式会社(志 賀工場) 腰痛肩こり予防の ための軽運動	令和3年度職場における 健康出前講座	石川サンケン株 式会社(志賀工 場)
2022/2/3	武部 真央	株式会社ほくつう 腰痛肩こ り予防のための軽運動(イス 編)	令和3年度職場における 健康出前講座	株式会社ほくつう
2022/2/8	竹腰 清亮	株式会社マル中 腰痛・肩こ り予防のための軽運動(イス 編)	令和3年度職場における 健康出前講座	株式会社マル中
2022/2/14	中崎 衣美	スポーツ栄養	2022年度小松大谷高校 部活動サポート	小松大谷高校
2022/2/16	中井 詔子	生活支援センター雪見橋 快 適な睡眠で仕事のパフォー マンスを高めよう	令和3年度職場における 健康出前講座	生活支援センター 雪見橋
2022/2/18	菊田 泰子	株式会社ハートハウス 心身 リラックスヨガ講座	令和3年度職場における 健康出前講座	株式会社ハート ハウス
2022/2/22	中正 二郎	南加賀女性スポーツの会健 康セミナー	南加賀女性スポーツの会 健康セミナー	多目的ホール
2022/2/23	武部 真央	ジャンプトレーニング	科学トレスペシャルセミ ナー	いしかわ総合ス ポーツセンター
2022/3/6	中井 詔子	白山市「タニタ健康倶楽部」 健康セミナー	白山市「タニタ健康倶楽 部」健康セミナー	福祉ふれあいセ ンター

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2022/3/9	竹腰 清亮	株式会社にしき堂 腰痛・肩こり予防のための軽運動(イス編)	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社にしき堂
2022/3/10	中井 詔子	株式会社にしき堂 快適な睡眠で仕事のパフォーマンスを高めよう	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社にしき堂
2022/3/10	中井 詔子	弁護士法人 兼六法律事務所 快適な睡眠で仕事のパフォーマンスを高めよう	令和3年度職場における健康出前講座	弁護士法人兼六法律事務所
2022/3/11	達 優起	北菱電興株式会社 筋力・サーキットトレーニング	令和3年度職場における健康出前講座	北菱電興株式会社
2022/3/16	竹腰 清亮	株式会社共栄商会 体成分測定機を用いた測定と改善のための運動	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社共栄商会
2022/3/18	中崎 衣美	三島石油株式会社 ビジネスパーソンのための食事・栄養学	令和3年度職場における健康出前講座	三島石油株式会社
2022/3/22	名倉 紀子	コアパワーヨガ	寺井高校部活動サポート	寺井高校体育館
2022/3/22	山口 裕子	株式会社クリエート 体成分測定機を用いた測定と改善のための運動	令和3年度職場における健康出前講座	株式会社クリエート
2022/3/24	中井 詔子	石川サンケン株式会社(内浦工場) 快適な睡眠で仕事のパフォーマンスを高めよう	令和3年度職場における健康出前講座	石川サンケン株式会社(内浦工場)
2022/3/25	達 優起	有限会社暖心 筋力・サーキットトレーニング	令和3年度職場における健康出前講座	有限会社暖心
2022/3/28	中崎 衣美	有限会社茗荷谷設備工業 ビジネスパーソンのための食事・栄養学	令和3年度職場における健康出前講座	有限会社茗荷谷設備工業
2022/3/28	山口 裕子	小松ガス株式会社 体成分測定機を用いた測定と改善のための運動	令和3年度職場における健康出前講座	小松ガス株式会社
2022年度		健康増進施設における標準的な運動プログラム検証のためのランダム化比較試験	厚生労働省大規模実証事業	
2022年度		白山市「あたまとからだの健康増進事業」	白山市「あたまとからだの健康増進事業」	
2022/4/9	中崎 衣美	金沢高校柔道部栄養講習	金沢高校柔道部栄養講習	金沢高校
2022/4/14～9月	東 香里	ライオンパワー株式会社講師派遣	ライオンパワー株式会社講師派遣	ライオンパワー株式会社
2022/4/15	金 奎兌	運動指導(コア)	小松ウォール工業株式会社新人研修	ダイナミック
2022/4/15	郷 真里奈	運動指導(ヨガ)	小松ウォール工業株式会社新人研修	ダイナミック
2022/4/15	三井 外喜和	健康経営講話	小松ウォール工業株式会社新人研修	ダイナミック
2022/4/21、22	中正 二郎	小松市まちづくり市民財団ウォーキング講習会	小松市まちづくり市民財団ウォーキング講習会	末広体育館、末広野球場室内練
2022/4/23	中崎 衣美	栄養講話	石川県トラック協会令和4年度第1回初任運転者指導講習会	石川県トラック会館
2022/6/5	川向 哲弥	第34回日本体力医学会北陸地方会シンポジウム講演講話「コロナの健康2次被害を防ぎましょう～感染予防とともに健康にも目を向けて～」	第34回日本体力医学会北陸地方会シンポジウム	富山地鉄ホテル11階多目的ホー
2022/6/17	三井 外喜和		誠和建設株式会社安全大会	小松芸術劇場うらら

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2022/6/20	吉田 純	公立学校共済組合石川県支部「講師派遣事業」庄小学校 腰痛肩こり体操	公立学校共済組合石川県支部「講師派遣事業」	加賀市立庄小学校
2022/6/23～	川崎 彰悟	すえさみ子ども園すえさみスポーツ塾	すえさみ子ども園すえさみスポーツ塾	すえさみこども園
2022/6/24	三井 外喜和	社会人としての健康管理について	コマツユニオン北陸新人セミナー	コマツ粟津工場
2022/6/24	伴場 若菜	リラックスヨーガ	コマツユニオン北陸新人セミナー	コマツ粟津工場
2022/6/25	中正二郎、中井 詔子、竹内 寛子	小松鋼機株式会社健康セミナー	小松鋼機株式会社健康セミナー	ダイナミック
2022/6/28	中井 詔子、山口 裕子、中崎 衣美	健康セミナー	白山市商工会議所健康セミナー	白山商工会議所
2022/7/2	三井 外喜和	健康経営講話	株式会社ツキボシP&P健康経営管理職研修	株式会社ツキボシP&P
2022/7/9	三井 外喜和	講演「子どもの体力・運動能力とやる気を伸ばす」	野々市市スポーツ少年団指導者保護者研修会	野々市市中央公民館
2022/7/15	中井 詔子	睡眠講話	コマツ教習所講師派遣	コマツ教習所
2022/7/15	郷 真里奈	運動リラックス&リフレッシュ	コマツ教習所講師派遣	コマツ教習所
2022/7/22	郷 真里奈	いつでもできるリラックス&リフレッシュ体操	公立学校共済組合石川県支部「講師派遣事業」東和中学校	東和中学校
7/25～7/28	中井 詔子	公立学校共済組合石川県支部「令和4年度元気アップセミナー」	公立学校共済組合石川県支部「令和4年度元気アップセミナー」	
2022/8/8	山口 裕子	かんたんシンプルヨーガ	公立学校共済組合石川県支部「講師派遣事業」動橋小学校	動橋小学校
2022/8/19	伴場 若菜	腰痛体操	村井索道株式会社腰痛体操講師派遣	村井索道株式会社
2022/8/21	伴場 若菜	やまとグループ社内イベント講師派遣	やまとグループ社内イベント講師派遣	山城温泉みやびの宿
2022/8/22	中井 詔子	ICC生活習慣改善プログラム「姿勢」	ICC生活習慣改善プログラム「姿勢」	株式会社石川コンピュータセン
2022/8/25	武部 真央	石川サンケン株式会社堀松工場運動実技「いつでもできるリラックス&リフレッシュ」	石川サンケン株式会社堀松工場講師派遣	石川サンケン株式会社堀松工場
2022/8/26	木下 直樹	石川サンケン株式会社志賀工場運動実技「いつでもできるリラックス&リフレッシュ」	石川サンケン株式会社志賀工場講師派遣	石川サンケン株式会社志賀工場
2022/8/29	中井 詔子	睡眠講話	北陸鉄道健保講師派遣	北陸鉄道株式会社
2022/9/9～9/10	中正二郎	和倉地区コミュニティセンター	丸文通商株式会社男性職員宿泊セミナー	和倉地区コミュニティセンター
2022/9/9	山口 裕子	いつでもできるリラックス&リフレッシュ体操	公立学校共済組合「講師派遣事業」加賀聖城高校	加賀聖城高校
2022/9/13、14、15	中崎 衣美	メタボ対策セミナー栄養講話	小松ウオール工業株式会社健康講話	小松ウオール工業株式会社、オンラインZOOM
2022/9/16	中正二郎	腰痛講話	コマツ教習所講師派遣	コマツ教習所
2022/9/16	中正二郎	腰痛肩こり予防体操	コマツ教習所講師派遣	コマツ教習所
2022/9/19	中崎 衣美	令和4年度第1回石川県スポーツ指導者研修会	令和4年度第1回石川県スポーツ指導者研修会	石川県地場産業振興センター大ホール

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2022/9/28	中井 詔子	健康経営優良法人認定取得までの取り組み	小松商工会議所健康経営セミナー	小松商工会議所
2022/9/28	山口 裕子	イスヨガ	小松商工会議所健康経営セミナー	小松商工会議所
2022/9/30	伴場 若菜	健康いきいき体操・ヨガ	クリーンアスリート・ソリダリティ石川市民健康教室	木場潟スポーツ研修センター
2022/10/1	中崎 衣美	未来のアスリートを育てる親子栄養教室	クリーンアスリート・ソリダリティ石川市民健康教室	木場潟スポーツ研修センター
2022/10/7	山下 祐子	自宅、職場で出来る運動「簡単なエクササイズ」	カガライト工業株式会社講師派遣	地場産業振興センター
2022/10/10	中崎 衣美	石川県バスケットボール協会審判コンディショニング研修会「スポーツと食事」	石川県バスケットボール協会審判コンディショニング研修会	オンライン
2022/10/12、10/13、10/14	伴場 若菜	姿勢改善、腰痛肩こりストレッチ	小松ウオール工業株式会社運動実技	小松ウオール工業株式会社本社、加賀工場、ダイナミックZOOM
2022/10/13	山口 裕子	かんたんシンプルヨーガ	公立学校共済組合「講師派遣事業」小松商業高校	小松商業高校
2022/10/14	小池 順	ゴルフラウンド前に行うウォーミングアッププログラム提供	ヘルスツーリズムウォーミングアッププログラム提供	ダイナミック
2022/10/15	中崎 衣美	栄養講話	黒瀬運輸株式会社健康づくり講師派遣	野々市市交遊舎
2022/10/15	東 香里	腰痛予防、パーキングエリアでリフレッシュ運動	黒瀬運輸株式会社健康づくり講師派遣	野々市市交遊舎
2022/10/22	竹内 寛子	SOMPOLいしかわパーク姿勢測定、姿勢改善エクササイズ	SOMPOLいしかわパーク健康チェック	金沢港クルーズターミナル
2022/10/26	伴場 若菜	小松社会保険委員会体成分測定、姿勢測定、姿勢改善エクササイズ	小松社会保険委員会健康セミナー	ダイナミック
2022/10/27	中崎 衣美	女性のための栄養講座	丸文通商株式会社女性日帰りセミナー	金沢港クルーズターミナル
2022/10/27	竹内 寛子	心身リラックスヨガ	丸文通商株式会社女性日帰りセミナー	金沢港クルーズターミナル
2022/10/27	中井 詔子	女性の健康	丸文通商株式会社女性日帰りセミナー	金沢港クルーズターミナル
2022/10/28、11/18、11/25、12/9、1/13、1/20、2/10、3/10	名倉 紀子	アスリートヨガ	令和4年度小松大谷高校部活動サポート事業	小松大谷高校
2022/11月	中崎 衣美、釜場 なる子	小松製作所健康保険組合ヘルスアップセミナー	小松製作所健康保険組合ヘルスアップセミナー	ダイナミック(オンライン)
2022/11/2	小池 綾子	安宅小学校学校保健委員会講演「こどもロコモ」	安宅小学校学校保健委員会講演	安宅小学校
2022/11/2～12/21全10回	小池 順、中崎 衣美	小松ガス株式会社来館型健康セミナー	小松ガス株式会社来館セミナー全10回	ダイナミック
2022/11/4	小池 綾子	串小学校学校保健委員会「こどもロコモ」	串小学校学校保健委員会講演	串小学校
2022/11/10	名倉 紀子	倉庫精練株式会社ヨガ講座	倉庫精練株式会社運動指導員派遣	倉庫精練株式会社
2022/11/16	伴場 若菜	コマツユニオン北陸ウェブレッスン体験会	コマツユニオン北陸様レッスン体験会	ダイナミック

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2022/11/17	山口 裕子	サーキットトレーニング	ライオンパワー株式会社 講師派遣	ライオンパワー株 式会社
2022/11/21, 24	中崎 衣美	スポーツ栄養	令和4年度小松大谷高校 部活動サポート事業	小松大谷高校
2022/11/21	武部 真央	体幹自体重トレーニング+ボ ディコンバット	寺井高校部活動トレーニ ング	寺井高校
2022/11/26	大久保 徳人	カラダ引き締めエクササイズ 等、コンディショニングチェッ ク	いしかわ健康増進キャラ バン	小松ドーム、ダイ ナミック
2022/11/27 ~1/14	中井 詔子	健康講話「女性の健康」、 デュークズウォーク	公立学校共済組合石川 支部「令和4年度女性健 康講座」	能登、金沢、加賀 会場
2022/11/28	越原 祥栄	自体重でのトレーニング	錦丘高校トレーニング指	錦丘中学校
2022/11/30	吉田 純	サーキットトレーニング	株式会社タガミ・イーエク ス法人会員特典レッスン	ダイナミック
2022/12月 ~3月	釜場 なる子、 桑村 貴太、中 井 詔子	令和4年度小松市オンライン 型健康づくり運動プログラム 事業	令和4年度小松市オンライ ン型健康づくり運動プログ ラム事業	ダイナミック
2022/12/12	名倉 紀子	コアパワーヨガ+ボディコン バット	寺井高校部活動トレーニ ング	寺井高校
2022/12/13	木下 直樹	ながらエクササイズ(志賀工 場)	石川サンケン株式会社運 動出前講座	石川サンケン株 式会社志賀工場
2022/12/15	長瀬 麗	ボクシングエクササイズ	ライオンパワー株式会社 講師派遣	ライオンパワー株 式会社
2022/12/15	木下 直樹	ながらエクササイズ(堀松工 場)	石川サンケン株式会社運 動出前講座	石川サンケン株 式会社堀松工場
2022/12/20	越原 祥栄	松任高校運動部トレーニン グ指導	松任高校運動部トレーニ ング指導	松任高校
2022/12/27	山口 裕子	リラックス&リフレッシュ体操	公立学校共済組合「講師 派遣事業」松陽中学校	松陽中学校
2023/1/4	中村 仁美	講話「健康経営について」	株式会社丸西組講師派	サイエンスヒルズ
2022/1/13	三井 外喜和	令和4年度体育の授業充実 体力向上アクションプランに おける第2回検討委員会	令和4年度体育の授業充 実体力向上アクションプラン における第2回検討委	石川県庁
2022/1/15	中崎 衣美	スポーツナース講習会	スポーツナース講習会	木島病院
2022/1/19	名倉 紀子	ピラティス	ライオンパワー株式会社 講師派遣	ライオンパワー株 式会社
2023/1/22	中崎 衣美	金沢市立高岡中学校バドミ ントン部バスケットボール部 栄養講話	金沢市立高岡中学校バド ミントン部バスケットボー ル部栄養講話	高岡中学校
2022/1/24	竹内寛子	松任高校運動部トレーニン グ指導	松任高校運動部トレーニ ング指導	松任高校
2023/2/4	吉田 純	ウォーミングアップ・クールダ ウン実技指導	松陽中学校野球部トレー ニング指導	弁慶スタジアム室 内練習場
2022/2/16	山口 裕子	腰痛肩こり解消	ライオンパワー株式会社 講師派遣	ライオンパワー株 式会社
2023/2/16	名倉 紀子	ヨガ実技「気持ちとカラダの リラックス」	UAゼンセン倉庫精練労働 組合ヨガ講師派遣	倉庫精練株式会 社
2023/2/18	小池 順	根上中学校部活動トレーニ ング指導	根上中学校部活動トレー ニング指導	根上中学校
2023/2/23	中崎 衣美	令和4年度第2回石川県ス ポーツ指導者研修会	令和4年度第2回石川県ス ポーツ指導者研修会	いしかわ総合ス ポーツセンター
2023/2/28	中崎 衣美	栄養ミニ講話「フレイル予防 と食事」	南加賀女性スポーツの会 健康セミナー	多目的ホール
2023/2/28	竹内 寛子	運動実技「簡単ヨガ&自宅 で簡単ストレッチ」	南加賀女性スポーツの会 健康セミナー	多目的ホール

年月日	氏名	発表演題名または講演題名	学会名または講演会名	会場名
2023/3/1	中井 詔子	睡眠講話	株式会社ホクコク地水安 全大会講師派遣	石川県地場産業 振興センター本館 大ホール
2023/3/4	三井 外喜和	健康講話「腰痛予防を身に つけよう」	はくさんタニタ健康倶楽部 健康セミナー講師派遣	健康センター松任 1F
2023/3/5	川崎 彰吾	イルカクラブ運動指導	トランポリンイルカクラブ 運動指導	小松市総合体育 館
2023/3/12	中崎 衣美	石川県ソフトテニス連盟指導 者研修会「成長期アスリート の食事のポイント」	石川県ソフトテニス連盟指 導者研修会	石川県地場産業 振興センター新館 第10研修室
2022/3/16	名倉 紀子	バランスエクササイズ	ライオンパワー株式会社 講師派遣	ライオンパワー株 式会社
2023/3/16	竹内 寛子	ヨガ実技「カラダの動きを整 える」	UAゼンセン倉庫精練労働 組合ヨガ講師派遣	倉庫精練株式会 社
2023/3/17	中崎 衣美	「パフォーマンスを上げる食 事の摂り方」	小松市スポーツ指導者セ ミナー講師派遣	こまつドーム集会 所
2023/3/24	山口 裕子	腰痛肩こり体操	公立学校共済組合「講師 派遣事業」日末小学校	日末小学校

事業所実績

北陸体力科学研究所	2021年度	2022年度
会員数	936人	938人
入会数(月平均)	13人	15人
退会数(月平均)	17人	15人
ジュニアスクール会員数	433人	395人
カルチャースクール会員数	54人	49人
やわた倶楽部会員数	36人	31人
セミナー実施数	20件	36件
講師派遣	134件	89件
いしかわ総合スポーツセンター		
延利用者数	74,058人	105,544人
1日平均	265人	294人
ダイナミックHakusan		
個人会員数	399人	471人
法人会員数	343人	371人
延利用者数	33,169人	39,276人

業務活動発表会

第 8 回業務活動発表会



～プログラム～

日 時 : 2022年1月28日(金) 17:45～

場 所 : 別館 5階 多目的ホール

サテライト会場も設けます。

部門の取り組みや業務改善、学会発表などの活動を発信、
今後の運営に活かします。

教育推進会議分科会 学術・年報部門

◆開会の挨拶◆

勝木 達夫 病院長

第一部 17:50～

1. 真実のサービスとは? ～やわた大学プロジェクトの活動報告～
在宅サービス部 通所課 北村智子
2. 「知って得するロービジョンケア」～視覚障害のホントを知ろう～
看護部 外来 橋本伸子
3. 認知症ケア加算1への取り組みと活動報告
認知症ケアサポートチーム 黒田洋子
4. 認知症を罹患している患者さんに対する転倒転落対策・病室環境整備の取り組み
看護部 4階病棟 大久保健
5. 6階病棟転棟対策の取り組み報告 ～センサーライト導入効果と今後の課題～
看護部 6階病棟 松本香菜子
6. 病棟看護師による嚥下機能評価導入に向けた取り組み①
看護部 3階病棟 谷口博紀
7. 病棟看護師による嚥下機能評価導入に向けた取り組み②
リハビリテーション技師部 3階 田畑美香
8. 超シンプルシステムで有給取得率を上げたドクターカレンダー
診療部 循環器内科 琴野巧裕

第二部 18:25～

9. 臨床検査技師の糖尿病への関わり《第3報》～血糖自己測定器(SMBG)物品お渡し場所移行について～
診療技術部 検査課 上村真由美
10. 臨床検査技師の糖尿病への関わり《第4報》血糖測定器の遠隔モニタリングにむけて
診療技術部 検査課 中山絵美子
11. 睡眠呼吸障害外来でのペーパーレスへの取り組み
診療技術部 検査課 北森友里恵
12. 入院患者に対する栄養指導実施率上昇への取り組み
診療技術部 栄養課 加納いくみ
13. 人工膝関節全置換術後早期の神経筋電気刺激プログラムについての効果検証
リハビリテーション技師部 5階 森山竣太
14. ICTも活用した持続可能な疾病リスクの軽減 ～糖尿病指導における運動の継続性と業務量～
リハビリテーション技師部 6階 今井美里
15. リハビリテーション技師部における、教育推進活動の報告
リハビリテーション技師部 6階 村中厳太

16. 病院事務部 医療サービス課の取り組み 2021年度 医師・コメディカル支援業務拡大プロジェクト
病院事務部 医療サービス課 東出友里奈
17. 病院事務部 医療サービス課の取り組み 逆紹介推進プロジェクト
病院事務部 医療サービス課 中井友香里
18. 「ひざトレーナー」サービス導入に向けた活動
北陸体力科学研究所 企画開発部 川向哲弥
19. 石川県のジュニアアスリートの見る力を知る～Vトレーニングを使ってスポーツビジョンを測る～
北陸体力科学研究所 事業部 いしかわ総合スポーツセンター 吉田純
20. 小松市における通いの場(サロン)実施状況のアンケート調査ーコロナ禍の影響と今後の対応ー
芦城クリニック 総合相談課 山崎晋平
21. 健康増進センターアエール芦城の2年間の歩み
芦城クリニック 堀田陽平
22. 在宅復帰後のリハビリテーション無支援中に生じる歩行能力の変化に着目して
在宅サービス部 通所課 健康スタジオ加賀温泉駅前 上野弘樹

◆ 講 評 ◆ 勝木 保夫 理事長

◆閉会の挨拶◆ 池永 康規 委員長

第一部

やわたメディカルセンター 在宅サービス部 通所課（やわた大学プロジェクトメンバー）

北村智子、田中那奈、正木輝美、村上応利、川 洋子、中口典子、安多 梓、瀬戸祐子、橋本 実、酒井有紀

1. 背景

通所リハビリテーションやわた健康スタジオ（Bスタジオ）では、生活への支援、生きがいをモットーに運営をしている。利用者個々の目的に沿った関わりや過ごし方になっているだろうかと再考するなかで、新たな支援サービスについてのプロジェクトを立ち上げた。

2. 通所での取り組み

2020年11月「やわた大学プロジェクト」を発足。理念として「いくつになっても、学びは人を成長させる」を掲げ、目的は「喜びや充実感がある時間を過ごしていただき、生きがいのある生活づくりを支援するために、生涯学習の機会を提供する」としたが、ICFに基づき自分でできることをアセスメントし、その持ちうる力を活かした「自助支援」を重視したものとした。例えば入浴では、洗体（自分で洗えるところは洗ってもらおう）、移動（車椅子を押す前に、自分でできるところまで漕いでもらおう）、食事（事前の手洗い、テーブルふき、お膳を下げる）など、利用者がしたいと思っていることを丁寧に聴いた上で、自分でできることは、まずしてもらいながら、必要な支援を行なうようにした。

2020年12月に、利用者の参加によるクリスマスステージを実現。

2021年、行事や日々の過ごし方について年間計画を立て利用者に提示し、それらの活動の企画・準備等に主体的に関わってもらい、能動的な行動が生まれるよう環境づくりと支援を行った。

3. 結果

新たな取り組みの結果、利用者の活動の企画・準備に協力してくれる姿勢や良い表情などが見られるようになり、スタッフの士気も向上した。また、スタッフ間で自主的に接遇勉強会を開催するなど、意識の変化も認められた。

利用者が自宅のキーボードを持参し演奏を披露するなどの利用者主体の行動も見られ、得意分野で役割ができたり、利用者同士の交流が生まれたりした。レクリエーション活動の時には、「今日は、麻雀のメンバーは揃っているかな？」、「今日、何かすることある？」などの能動的な言葉が聞かれるようになり、利用者がリードできる場が増えた。

4. 考察

今回の取り組みを通して、利用者にも分かりやすい実施に向けてのテーマがあると進めやすいと感じられた。しかし、全員が同じ気持ちになることは難しく、目的や方法など計画をしっかりと立てていく必要があると考える。

大きな行事を実施していくとなると、スタッフの協力が必要であるが、利用者の思いに寄り添い、よい支援ができているという実感をスタッフが持つことができれば、自ずとスタッフの協力が生まれると思われ、目的を共有してサービスにあたることが重要と考える。

日々の身体介護に追われる中、まだまだ十分とはいえない活動であるが、利用者が生き生きと主体的な行動ができる輝くひと時を創る支援を行い、笑顔に満ちた、充実感のある場所づくりを行い、2025年に向け「真実のサービス」を追求していきたい

知って得するロービジョンケア～視覚障害のホントを知ろう～

やわたメディカルセンター 看護部 外来 橋本伸子

一般的に視覚障害者＝全盲のイメージが強いが決してそうではない。

2009年の日本眼科医会の発表によれば、日本の視覚障害者164万人のうち88%は弱視（ロービジョン）と呼ばれるまだ見える人たちで全盲者は11%である。

そして視覚障害者に向けた保有視機能を活用した、包括的な自立支援の総称をロービジョンケアと呼ぶ。

ロービジョンケアは医療の中では馴染みがなくまだまだ知られていないことが多い。

そのために視覚障害に配慮できる医療機関はほとんどないのが現状である。

ロービジョンケアは難しいものではない。

ポイントは次の通りである。

挨拶はこちらから名乗る。使ったら必ず元の場所に戻す、開けたら閉めるこれ基本。そして声に出す、拡大する、輪ゴムを巻く、シールを貼る、よく使う物は指定席を決める。これだけで自立度は抜群に上がるのである。

具体的には「〇〇さんおはようございます□□です」とこちらから名乗る。ボールペンの文字が見えにくければマジックで書く、自署サインをするときはサインガイドを準備する、区別が難しいものは輪ゴムを巻く。区別が必要なものにシールを貼る。音を出す、声を出す、椅子を叩くだけでも支援である。

また視覚障害者は自宅のような慣れた場所ではトイレに困らないが、外出先ではトイレを見つけることに困難がある。場所の案内以外にトイレトペーパーが左右どちらについているか、流し方の情報があると安心して利用できる。

視覚障害者もパソコンやスマートフォンを活用している。

スマートフォンのカメラで拡大してみる、アプリを使って体温計を読み上げる、AIスピーカーを使ってエアコンを声で操作する、LINEを耳で聞くなんてことも可能である。

これはどこか都会の話ではなくて視覚障害者手帳を持った当院の患者さんの実用例である。高齢者社会や他の障害にも活用できるロービジョンケアである。

今、時代はデジタル庁もかかげる「誰一人取り残さない」社会の実現へ向かっている。しかし、当事者がロービジョンケアの情報にたどりつくことは難しいと言われている。視覚障害者は情報障害である。

そこで多くの医療従事者がロービジョンケアの知識を持つことが大きなマンパワーとなる。リハビリテーションが根付いた当院ではさらなる新しいアイデアやケアの発展も望めるだろう。そして数年後にはロービジョンの対応も当たり前ができる医療機関として地域を牽引して成長していけたらと願っている。

認知症ケア加算 1 の取得と認知症ケアサポートチームの活動報告

黒田 洋子、三苫 純子、藤岡 はるか、小嶋 さおり、西田 晴美、
澤田 優、小前田 さき、中出 奈津子、谷内 香織、高島 朋子

【背景】

厚生労働省は、団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年に高齢者 5 人に 1 人に達するとの見込みで、認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる社会を目指、2019 年に認知症施策推進大綱を策定した。

病院では、身体疾患のために入院した認知症患者の認知症症状の悪化を予防し、身体疾患の治療を円滑に受けられることを目的として、病棟における対応力とケアの質の向上を図るために 2016 年の診療報酬改定で認知症ケア加算 1・2 が新設、2020 年には 3 段階に変更された。

当院でも 2021 年 12 月入院総数 324 名に対する 65 歳以上の高齢者数は 234 名 (72.2%)、65 歳以上の高齢者のうち、認知症高齢者の「日常生活自立度判定基準」のランクⅢ以上対象者数は 46 名 (19.6%) となっており、早急な対応が必要である。

【認知症ケア加算 1 取得までの経緯】

2018 年 12 月に認知症ケアサポートチームを立ち上げた。2019 年 7 月認知症ケア加算 2 を取得、薬剤師、言語聴覚士が加わり多職種チームとなった。2020 年 5 月からは認知症看護認定看護師と医師でラウンドを月 1 回実施、2021 年 10 月よりラウンドメンバーに社会福祉士が加わり、1 回/週ラウンド・カンファレンスを行うことで遅延なく対応できるようになった。さらに認知症者の評価、ケアの立案がスムーズに行えるよう電子カルテ上の看護基礎情報の項目や認知症患者に対する看護診断とケアの周知、認知症カンファレンス記録の入力方法の変更を行った。ケア加算要件を満たし、2021 年 12 月より認知症ケア加算 1 を算定している。

【認知症ケアサポートチームの活動目的】

- ① 認知症ケアを必要とする入院患者の適切な抽出と看護計画立案の助言
- ② 病棟における認知症症状の悪化予防のためのコミュニケーションの方法や環境時調整への助言
- ③ 身体拘束廃止への取り組み
- ④ 在宅生活のための入院早期からの退院支援への介入

【認知症ケアサポートチームの活動内容】

- ① 入院している認知症患者に対して 1 回/週、認知症看護認定看護師が各病棟で行われている多職種カンファレンスに参加し対象者の情報収集と助言を行う。
- ② 医師、認知症看護認定看護師、社会福祉士（必要に応じて作業療法士、管理栄養士、薬剤師が参加）が、1 回/週病棟をラウンドしカンファレンスを実施、適切なケアについて病棟の担当者に助言する。
- ③ 緊急時は、病棟からの申し出に応じてその都度対応する。
- ④ 2021 年 6 月に現地と ZOOM も併用し「認知症者にとっての生活環境づくり」というタイトルで認知症患者の対応を行う病院スタッフに対して研修を行った。

【効果】

認知症患者の適切な抽出と看護計画立案ができた。

見当識の維持、不穏改善を目的としたカレンダーや時計の設置など自主的にケアへ取り組むようになった。

【課題】

- ① 身体拘束の減少に向けた介入が不十分
- ② 認知症者や家族に対する入院早期からの退院支援の取り組みへの介入が不十分
- ③ 認知症ケアに対する研修会への参加率が低い
- ④ 看護計画が立案されているがケアの評価は不十分
- ⑤ 急性期のせん妄の評価が不十分

認知症を罹患している患者さんに対する転倒転落対策・病室環境整備の取り組み

4階地域包括ケア病棟

看護師：大久保 健、岩崎 麻衣子、三上 静佳
佐々木 里美、谷口 祐恵
理学療法士：上地 本高

【はじめに】

近年、認知症罹患している高齢者が多く、入院による環境の変化・疾患による症状によりせん妄を引き起こし、行動観察のために足元にコールマットを設置し行動観察を行うが、予期せぬ行動をすることも多く転倒することも少なくない。更に、行動の抑制を行うことで興奮が強くなり拘束が必要となることもある。

当病棟では、入院・転入時や日常生活動作変更時に転倒転落アセスメントチャートを使用し多職種で転倒・転落予防のためベッド周囲の環境について評価を行っている。その他にも、その患者の活動に合わせてベッド周囲の環境を変更している。今回、当病棟の認知症を罹患している患者に対する転倒転落対策に関しての取り組みを紹介する。

【患者紹介】

T氏 90歳 男性 大腿骨頸部骨折（保存療法）で入院された方。認知症あり。

転入時は、スタッフコールでの依頼ができず、多職種にて協議の結果、足元コールマットを設置し行動観察を行った。端座位になりコールマットが頻回に鳴っていた。

その後、痛みが緩和し動けるようになると自己でベッド周囲を伝い歩きし、窓の外を眺めたり、ロッカーの中を何回も確認しベッドとロッカーを何度も行き来したりと、コールマットにて対応する回数が更に多くなっていった。

自立心も高く干渉される事も嫌い、コールマットが鳴る度に看護師が訪室すると「なんで来るんか。」と強い口調で訴えたり、カーテンを閉めてしまったりする行動が見られ、不快に思っている様子が見受けられた。

本人の欲求を満たすためにはどうしたらいいか、転倒リスクが残る中で、安全を確保しつつ、頻回にコールマットが作動する現状で訪室の機会を減らすにはどうしたらいいか、転倒無くすごせるためにベッド周囲の環境をどう整えるか、チーム内で検討を行った。協議の結果、ベッドの位置を変更することで4人部屋を個室形式とし、病室環境を見直し、伝い歩きができる環境とした。起立時や歩行時にバランスを崩した場合でもすぐに掴まる場所があるため、転倒を防ぐことができ、生活場面で伝い歩きが可能となり、その結果、歩行機会の拡大と能力の改善も得る事ができた。コールマットが鳴る回数も減り、看護師の訪室する機会も減り、ご本人も自分のしたいように、自己のペースで生活できるようになりストレスも減ったように思われた。業務負担・改善にも繋がり業務の多忙のなかで、多職種と協議し、患者に合わせた安全で思いに沿った病室環境を設定する事ができたと考える。

演題 6階病棟転倒対策の取り組み報告 ～センサーライト導入効果と今後の課題～

演者 松本香菜子¹⁾ 竹内彩子²⁾ 柳井麻斐³⁾ 高崎都¹⁾ 森安隆宗⁴⁾

所属 看護部6階病棟¹⁾、4階病棟²⁾、5階病棟³⁾、リハビリテーション技術部⁴⁾

【はじめに】

昨年度、院内の転倒プロジェクトで6階病棟では夜間転倒が多いことが指摘された。そこで、2020年度に病棟で報告のあった転倒の状況を分析し、傾向があったため対策と工夫を行い入棟初期の夜間転倒が減少傾向にあるため、今後の課題と合わせて報告する。

【病棟特性と転倒因子分析】

2020年度は、61件の転倒報告があり、その内約50%の31件が入棟7日以内に発生していた。さらに、入棟3日以内に19件、そのうち夜間転倒が14件であった。転倒時の状況として、排泄関連動作で84%発生し、身体状況・環境として、スリッパ・裸足が47%、浮腫36%、夜間転倒時の暗さが57%であった。当該病棟は、内科の急性期病棟であり疾病特性上、浮腫などにより靴が履けない患者、治療により排尿回数が日常より増加する患者が多いことも考慮する必要があることがわかった。

【業務改善】

入棟初期の転倒アセスメントを実施するにあたり、病棟の傾向を踏まえて看護師、療法士と協議し行うこと、夜間の転倒対策の備品としてセンサーライト、靴の履けない患者への対応として滑り止めマットの導入を行った。また、転倒発生時には現地現物で看護師、療法士、介護福祉士で評価、協議を行っている。

【結果】

2020年度（1年間）と、2021年度4月～11月（8ヶ月間）の転倒分析を行った結果、入棟3日以内の転倒は9件、そのうち夜間転倒は7件と減少傾向にあった。また、夜間転倒時の暗さは29%に減少していた。さらに、同一患者の再転倒は、2020年度8件から、2021年度3件と減少傾向であった。一方で、入棟4日目以降の急性症状が改善し活動性が増加してからの転倒は増加傾向にあった。

【考察】

入棟初期の夜間転倒が減少傾向にあるのは、夜間の療養環境改善のためのセンサーライト、病棟特性を考慮した滑り止めマットにより患者の療養環境が改善されたこと、入棟初期から療法士と協議し対策を行ったためと考える。さらに、同一患者の転倒が減少傾向であるのは、転倒発生現場でのカンファレンスを行う事で、患者の行動の意図、環境の確認、その場所以外の行動予測を多職種で行えたことが再転倒確率を軽減できていると考える。今後の課題は、入棟4日目以降の急性症状が改善し、活動性を増加させながら安全に療養できるようアセスメントし、さらに工夫していくことと考える。

【結語】

転倒をさらに減少させるには、入棟初期、4日目以降の転倒転落アセスメントを多職種間で協議を行い、行動抑制を行うのではなく、より活動的で患者さんの状態にあった個別的なアセスメントと工夫が必要である。

病棟看護師による嚥下機能評価導入に向けた取り組み①

(ポスター演題) 谷口博紀、須曾美帆、田畑美香

【はじめに】

当院では嚥下機能評価を言語聴覚士（以下 ST）が行っている。しかし、各階に ST が配属されているわけではなく、水飲みテスト実施までに時間を要することがある。

安全でタイムリーな嚥下機能評価を行うことができれば、早期の経口与薬や経口摂取移行に繋げることができる。

そこで今回、病棟看護師による嚥下機能評価の導入を行った。当院における取り組みの工夫や、今後の課題についてここに報告する。

【取り組み】

- 1) 当院水飲みテスト手順書の作成：①確認項目（意識レベル、姿勢）、②事前準備、③テストの流れを表示したものを準備する。物品については感染予防を最優先し、使い捨ての物にする。
- 2) スタッフへの指導：水飲みテストについて各階の看護師に説明し、スタッフ間で実施してもらう。
- 3) 症例の振り返り：水飲みテストを行った患者の経過を調査する。
- 4) 水飲みテストを行ったスタッフに聞き取り調査を行う。

【結果】

準備期間を経て、2021年4月～2021年8月にかけて、8名の入院患者に対して病棟看護師が水飲みテストを行った。8名中6名において、入院当日もしくは翌日に水飲みテストが行われていた。残り2名の内1人は経口摂取開始前、もう1人は食形態アップのタイミングで水飲みテストが行なわれていた。水飲みテスト後に誤嚥性肺炎を起こした事例はなく、経口摂取に移行できた患者もいた。スタッフからは「流れに沿ってできたので難しくはなかった。」「次もやってみようと思った。」一方、手順書の説明を聞いていなかったスタッフからは、「手順書の流れが理解しづらかった。」「物品をどう使えばいいのかわからなかった。」などの意見があった。

【考察】

水飲みテスト手順書やその説明、物品準備を行なうことで、病棟看護師における早期の嚥下機能評価ができたと考えられる。また、誤嚥性肺炎を起こすことなく経過していたことから、安全性も確保できていたと考えられる。現在の手順書では伝わりづらい部分があると予測され、手順書の見直しや動画作成など対応していく必要がある。さらに、適宜 ST と協力しながらスタッフの手技を確認したり、リンクナースを育成していくなどの課題が挙げられた。

病棟看護師による嚥下機能評価導入に向けた取り組み②

リハビリテーション技師部 田畑美香
やわたメディカルセンター3階病棟看護師 谷口博紀

【はじめに】

摂食嚥下障害看護認定看護師らと協力し、病棟での嚥下スクリーニングの手順書を作成した。病棟看護師による嚥下機能評価を導入後、実施状況や困った点を調べるためアンケートを実施した。その結果を基に今後の課題を整理し報告する。

【アンケート概要】

実施期間：2021年9月（導入より約半年）

対象：やわたメディカルセンター病棟勤務看護師（休職者を除く看護師数101名）

方法：WEBアンケートフォーム使用

回答数：52名

【アンケート結果】

1. **手順書を使用したスクリーニング実施経験の有無** 有り12名（23%）無し40名（77%）
2. **実施した病棟** 6階病棟が最も多く、8名（61%）、次いで4階病棟4名（31%）、5階病棟1名（8%）の順になった。3階病棟では入棟と同時に言語聴覚士が介入していることが多く、看護師の実施がなかったと思われる。
3. **実施して困った点** 半数が「ない」と回答、困った点としては判断に関すること、実施方法に関することが挙げられた。
4. **実施していない理由** 「対象患者がいなかった」が最も多かったが「やり方が分からない」、「手順書を知らない」という意見もあった。
5. **今後実施していくために必要なこと** 嚥下評価を実施する対象や手順、啓発活動について、の意見があった。またケアへの気づきも挙げられた。

【今後の課題】

誤嚥性肺炎等、摂食・嚥下障害が疑われる患者が服薬や水分摂取を開始する際、病棟看護師が嚥下評価を行う事で、安全にタイムリーに服薬や飲水が開始できると考える。アンケートから病棟での看護師によるスクリーニングの導入は行えたが、実施の手順について定着しておらず、看護師が迷いながら実施、判断していることが推察された。定着するためには手順書の見直しや、実技研修を含めた研修や動画作成などの啓発活動の継続、こういった場合に言語聴覚士の介入を検討するかの目安などが必要である。

演題：超シンプル、ゼロコストシステムが医師の有給休暇取得率を 30%増加 ～ドクターカレンダーの活用～

演者：琴野 巧裕

所属：診療部

【背景】

医師の過重労働は大きな問題となっており、とりわけ他業種と比較しても有給休暇取得率の低さも際立っている。サステナブルな医療提供体制を整える観点から、医療従事者が適切に休暇を取得し、自身の健康管理を行う重要性も問われる時代となっている。

【方法】

ゼロコスト、かつ超シンプルシステムによる医師の、医師による、医師のための勤務カレンダー活用を行うことで有給休暇取得率の向上と、偏りのない年間計画に沿った有給所得を目指したカレンダーを作成、運用した。

【評価方法】

2年間異動のない医師で評価し、対照となる 2020 年 4 月から 12 月と、運用開始後の 2021 年 4 月から 12 月の有給所得率の比較を行った。

除外基準として、新入職や異動のある者、病欠のある者は解析から除いた。

【結果】

2020 年では 8 ヶ月で合計 92 日の有休取得日数であったが、2021 年では 120 日と約 30% 有給取得率が増加した。またほとんどの月において前年同月比での有給取得率の増加が認められ、偏りのない年間計画に沿った有休取得している実態も見えた。また、医師毎の有給休暇取得日が見える化することで、同一科内で有給休暇が重なる日数が極めて少なく、病院運営自体にも優しいシステムとなり得ていることがわかった。

【結論】

医師の大きな問題である過重労働のうち、有給取得率の低さに関して、ドクターカレンダーを用いることにより有給取得率の向上につながった。また、年間計画に沿って偏りの少ない計画的な有給休暇の取得になっており、今後も有給取得率の向上につながる期待と、シンプルなシステムにしたことにより持続的な運用も期待される。

第二部

検査課 上村真由美

【はじめに】

外来糖尿病診療において、主にインスリン製剤の自己注射を行っている患者に対し、血糖自己測定値に基づく指導を行うため SMBG 器を使用している。

【SMBG 器関連業務の経緯】

2018 年 POCT 器を導入し、SMBG 器との違いについて看護師向けに勉強会開催
2018 年 SMBG 器の保守点検開始、新規 SMBG 器導入患者への指導開始
2019 年 病棟での新規導入時説明指導
2020 年 3 月 自己血糖測定器関連業務を内科外来から検査課へ移行
機器をワンタッチ ベリオビュー®へ変更開始
穿刺針、センサー、消毒綿などの物品渡しも同時に開始

【目的】

自己血糖測定器に関連する業務を検査課へ移行したことにより、患者に対しアプローチした点、課題および展望について報告する。

【業務移行の準備から実際】

糖尿病内科医に機種変更について提案した。機種変更や物品渡しの場所変更についてサイネージやポスターでの案内を行った。物品数に関しては医事課に血糖自己測定器加算について勉強会を開催していただいた。SMBG 器使用者に看護師や診療情報管理士から声かけし、生理検査室で機器変更と操作手技の確認、物品渡しを行った。物品を渡す際、残数の確認や操作手技の確認を患者（家族）と行った。

【結果】

SMBG 使用者全員（263 名）のうち、191 名（72.6%）に対し機種変更を行った。機種変更の際に、自宅にある未使用の機器や消耗品を持参頂き、残数が多く医療資源の無駄遣いとなっていることも判明した。指示回数分の測定ができていない方へは、測定意義について伝え、また、できない理由を聞き、生活スタイルに合わせた測定タイミングについて提案した。血液が出ないなど手技に不安にある方への確認を行えた。

医師に新規機種（リフレクト）への提案を行うことが可能となった。

物品渡し場所の変更に対する問題点もあった。

【考察】

手技を再確認でき、再穿刺が減った患者には予備用の物品配布が無くなった。

採血量の少ない機種を提案、導入でき、穿刺時の痛みが軽減したと患者より好評であった。

【展望】

SMBG 器の機能、患者の操作性向上を念頭に、常に新機種検討、提案が出来るよう情報収集を継続したい。患者への支援は画一的にならないよう課内スタッフのレベルアップに努めたい。

臨床検査技師の糖尿病への関わり 《第4報》

ICTを活用した患者と医療者の自己血糖管理共有に向けて

検査課 中山 絵美子

【はじめに】

検査課では、2020年3月より糖尿病患者に対し自己血糖測定器の導入説明をしている。コロナ禍となり、当院でも電話対応によるコロナ処方が行われ、採血データや自己血糖データはなく、Do 処方している状態であった。自己血糖測定値データの確認が可能であれば、処方される医師の診療に役立てるのではないかと考え、クラウド管理が可能な機種を導入した。

【目的】

患者自身がスマートフォンで確認でき、かつ、医療側も血糖測定値の確認が可能な「ワンタッチベリオリフレクト™（リフレクト）」を導入したことについて報告する。

【導入準備】

医療機器メーカーより機器の使用方法について説明を受け、実際に医師、看護師、理学療法士、検査技師など患者に関わる複数職種が自己血糖測定器とスマートフォンアプリを試用した。また、医事課にご協力頂き、現在自己血糖測定器使用の患者リストを作成した。その中から60歳以下でリフレクトへの変更が可能と思われる患者へ声かけを行なった。同時に外来のサイネージによる案内を開始した。

【導入業務】

機器変更の承諾を得た方へ導入開始。自己血糖測定器の使用説明に加え、データの医療連携に関する同意書の記入およびスマートフォンアプリを取得していただき、操作手技を確認した。

【導入結果】

検査課では診察日の前日までに血糖データの出力および電子カルテへPDF取込みを行い、データ確認出来るよう準備を行なった。糖尿病担当医師からは血糖測定値がデータ化され、「変動分析など参考にするデータ量が十分にある」、「全体が見やすい」、看護師からは「業務が軽減された」との声があった。患者からはアプリに関するトラブルや質問を受け、検査課内ではアプリと自己血糖測定器の同期がなく診察日までにデータ出力が出来ないことがあった。

【考察・展望】

ICTを活用して血糖測定値を共有することで、測定値や測定時間の信頼性が増し、診療に活かされたと考えられる。今後スマホ使用増加に伴い、リフレクト導入が増える予想される。患者自身のスマホでの管理となることを受け、導入と並行してアプリに関する注意点などについて、医療機器メーカーに確認をとりながら使用される方へ伝えていきたい。また患者家族の協力のもと導入されている方もいるため、協力して頂く患者家族と医療者側で情報共有し共に血糖コントロールがより良く行える事を期待する。

【はじめに】

睡眠時無呼吸症の治療としてCPAP療法があり、患者は病院からCPAP装置※1をレンタルする。レンタル料は医療保険の対象となっており、1～3ヶ月に1度の通院が必要である。睡眠呼吸障害外来では、CPAP装置の使用データを確認し、そのデータをもとに診療を行っている。

【CPAP装置管理・診療の体制】

- 2012年4月 検査課がCPAP装置の管理を開始（CPAP患者およそ300名）
CPAP装置のデータを印刷。診療を行った後、患者へ印刷用紙を渡す運用。
- 2015年12月 CPAP業者によるトラブル対応や備品対応を検査課対応へ移行（CPAP患者543名）
- 2016年10月 内科で行っていた診療を12番ブース（睡眠呼吸障害外来）へ移動（CPAP患者594名）
内科（診察）と検査室（CPAP解析・患者対応）間を患者が行き来していたが、12番ブースで全て行えるようになった。
- 2017年6月 CPAP装置をWEB対応機種に変更開始（CPAP患者640名）
患者が持参したカードを診察日に解析していたが、順次前日にWEB解析で行うように変更。
結果は印刷する運用。
- 2021年5月 企画統計部の協力があり、タブレット2台、DVD-Rを用いてペーパーレス化
印刷して患者に渡していたCPAP解析データをペーパーレス化する（CPAP患者791名）

【目的】

CPAP治療データのペーパーレスによる、診療における改善点や課題について報告する。

【ペーパーレス後の変化】

技師：専用のPC1台でのみ解析していたが、タブレットから共有のフォルダに解析レポートを保存出来るようになったことで、複数の技師が同時に作業できるようになり、作業効率が上がった。

医師：診察室で案内票入れファイルに入った紙の解析レポートを確認していたが、患者を呼び込む前に解析レポートを確認できるようになった。診察室の表示画面が大きく、文字が見やすいため説明しやすい。また、今まで解析レポートで分からなかった詳細データが確認できるようになり、以前より解析データを活かした診療が行えている。

患者：使用状況に問題なければ、印刷物は不要という方が多く、印刷を希望されたのはCPAP使用患者の1割未満であった。環境に配慮していて素晴らしい。診察室の表示画面が大きくて見やすいと取り組みを評価していただいている声が多い。

【考察】

ペーパーレスにより、医療従事者の作業効率が上がり、大きな患者トラブルも起きていない。しかし、印刷は不要だが、データがほしいという患者もおり、患者自身がデータを確認できるシステムの必要性を感じた。今後希望される方には、CPAPデータを確認できるアプリの利用を勧める等、患者のニーズに合った診療を行ってきたい。

※1. CPAP装置：マスクを介して一定の風圧を送ることで気道を広げ、閉塞を防ぐ装置。

入院患者に対する栄養指導実施率上昇への取り組み

診療技術部栄養課 加納いくみ

【背景】

当院では、以前から入院患者の栄養指導実施率が低いという課題があった。なかでも整形外科入院の患者への実施率が低い。本来、特別食を提供している患者には栄養指導の実施が望まれる。しかし、整形外科疾患で入院する患者は内科疾患があっても整形治療が優先となり、食事改善や栄養の意識には至っていないケースがある。そこで、特別食の対象となる患者へ管理栄養士が積極的に介入し、必要な患者に栄養指導をすることを目的とした。

【取り組み】

まず入院サポートセンターと連携し、入院前の段階で管理栄養士が特別食のオーダーを代行入力する仕組みを作った。

次に、栄養指導を組み込んだ整形外科のクリニカルパス数を増やした。以前は THA、TKA、HTO、UKA、DFO、DLO のクリニカルパスにのみ栄養指導が組み込まれていたが、短期入院以外のクリニカルパス全てに栄養指導を組み込んだ。

【結果】

入院サポートセンターとの連携によって特別食の提供率が上がった。必要な患者に特別食が提供されることが標準化された。

5 階病棟での栄養指導実施率が顕著に上昇した。2020 年度の月平均の栄養指導実施率は 25.4%であったが、クリニカルパス変更後の 2021 年 6 月以降は 43.4%となった。

【課題】

管理栄養士の業務負担が大幅に増えた。そのため、栄養課内で業務の見直しを行い負担軽減に努めている。また多職種によるチーム医療の一環として介入することで患者を一元的にサポートすることができる。そのため、管理栄養士は栄養上の課題は速やかに多職種と情報共有し、栄養管理の重要性を常に発信し続けていく必要がある。

人工膝関節全置換術後早期の神経筋電気刺激プログラムについての効果検証

石川県理学療法学会 演題発表予定

発表者：リハビリテーション技師部 5階病棟

森山竣太、池田拓史、村上拓也、渡邊陽佑、津田直輝、後藤伸介

【背景】

人工膝関節全置換術（Total Knee Arthroplasty;TKA）は変形性膝関節症により日常生活に支障のある患者さんに対しての治療とされるが、疼痛改善後も下肢筋力は60%程度までしか改善されていないことが報告されている。下肢筋力の低下は歩行能力や転倒リスクとの関連があり、臨床場面でも患者さんから不安の声が聞かれる。

高齢者や早期社会復帰を目標する方にとって下肢筋力を十分に回復させることは課題であり、術後早期の運動プログラムの改善が求められた。

【目的】

術後早期は一時的な日常生活動作能力の低下、痛みによる身体活動量低下を引き起こし、下肢筋力低下が伴う。今回、術後早期から機能改善に有用とされる神経筋電気刺激療法の開始を検討し、下肢筋力や歩行能力の改善を目的とした。

※神経筋電気刺激療法とは、筋力低下により動かしにくくなった手・足の運動を電気刺激でサポートすることで、弱まった運動機能を改善させる治療法である。

【取り組み】

従来) 膝関節筋力強化運動や歩行練習中心の運動療法プログラム。

改善案) 従来の筋力強化運動に併用して、出力 50Hz を間欠的に 15 分間の神経筋電気刺激を、術後 2 日目からの 6 日間、1 日 2 回実施。

【結果】

全例、神経筋電気刺激療法による有害事象は見られなかった。従来の運動プログラムに比べ、術後 2 週での膝関節伸展筋力、歩行速度に改善傾向を認めた。当該治療における患者さんの受け止めは『力が入りやすい』『動かしやすくなる』『電気はまだか』など前向きな思いが聞かれ、運動にも意欲的になっていた。

【結語】

神経筋電気刺激療法は、疼痛などで満足な運動療法が行えない中でも、筋力強化プログラムが円滑に遂行されることにより運動機能の改善傾向が示唆された。下肢筋力は歩行自立にも関連しており、早期在宅復帰や社会活動再開を果たせるプログラムの一つであると考えられる。

【課題】

今後は、症例数を増やし、より効果的な介入方法を検討していく。

携帯端末アプリを活用した持続可能な疾病リスクの軽減 ～糖尿病指導における運動の継続性と業務量～

演者：今井美里、森安隆宗、後藤陽介、高崎都、琴野巧裕

所属：リハビリテーション技師部、看護部 6 階病棟、診療部

【はじめに】

今年度、6 階病棟の基本方針として「効率的な業務への変更」「やりがいのある働き方への業務の改善」を掲げ、ICT を活用した地域生活における持続可能な包括的医療の提供が重点目標となった。病棟課題として、コロナ禍により生活習慣病教室での集団教育の中止、個別指導にかかる手間が挙げられた。そこで、病棟看護師・療法士での「ICT 活用チーム」のプロジェクトが開始となった。今回、糖尿病教育入院患者に、ICT を活用した自己管理支援の導入を行い、退院後の継続性に期待ができたため報告する。

【指導方法】

① 従来法

コロナ禍以降の 2020 年度においては、個別での指導を中心に行っていた。

② 動画指導法

従来の生活習慣病教室を編集し約 10 分の指導動画を作成（以下指導動画）し、指導用タブレットを用いて指導を行った。さらに、動画視聴後に理解度チェックテストを実施し、テスト結果に応じて部分的な補足説明を行った。また、疾患管理の継続、運動習慣の獲得と継続を目指し、ご自身の携帯端末アプリ（ONE TOUCH 等）での歩数管理や血糖値などのセルフモニタリングの提案を行った。

【結果】

2020 年 4 月～2021 年 3 月（10 名：男性 7 名、女性 3 名）と、2021 年 4 月～2021 年 11 月（13 名：男性 9 名、女性 4 名）の 6 階病棟へ糖尿病教育として入院した患者の指導方法、退院後の運動習慣について診療録、サービス移行先の情報を元に調査した。この情報では、追えなかったものは不明とした。

2020 年度は従来法での指導のみであり、2021 年度は従来法 30.8%、動画指導法 69.2%の割合で指導を実施。また、2021 年度は 38.5%が自己管理として携帯端末アプリを使用した。

3 ヶ月後の運動習慣の継続率として 2020 年度は 20%、2021 年度は 46.2%と継続率は増加傾向であった。その中で、2021 年度で携帯端末アプリ導入し指導した中で運動継続率は 60%、未使用例は運動継続率 37.5%であった。

【考察】

今回は、短期的ではあるが入院中にアプリの導入まで至った患者は退院後の運動継続性も良好であった。庄島等は、成果や達成度を「見える化」することは、やる気の維持・向上、そして自身への気づきにも繋がると述べている。本稿においても、理解度チェックを行うことで患者の理解度が高まり、携帯端末でのセルフモニタリングにより、自身が行った成果・達成度が「見える化」し継続性に良い影響を与えたものとする。また、動画を用いることで直接的な指導時間は、約 10 分程度と数日間隔で数分のアドバイスのみと業務効率も改善したと考える。

一方で、対象によっては従来からの指導方法が適切な場合もあり患者のリテラシーや要望に応じた手段の選定は必要であると考え。今後は、家族指導への応用も検討していきたい。

【結論】

ICT 活用し患者教育を行うことは、業務効率も上がることで、そして、患者本人の理解度向上、退院後の疾病管理・セルフモニタリングの継続性にも期待ができる可能性が示唆された。

【背景】

やわたメディカルセンター(以下、YMC)リハ技師部の教育推進活動は2009年から職員・社会ニーズに応じた学習と成長を支援する事を目的に活動を行っている。新人から管理者まで、そのキャリアに応じた研修や自己研鑽の推進支援を行ってきたが、コロナ禍になり、それに対応したものに改善を行ってきたので、報告する。

【教育課題と取り組み】

① コロナ禍における学習頻度の低下

昨今のコロナ禍において、院外の研修会参加が行えない事など、学習頻度が従来と比較して低下している。これまでであった部内における対人での専門的な学習会も、頻度が低下している現状であった。そこでeラーニングを用いた学習機会の設定。教育動画配信サービスリハノメ(以下、リハノメ)をスタッフルームのTVモニターを用いて昼休みに動画を再生した。また聴講後に各療法士の有志による実技講習の実施。各自のライフスタイルに応じて、スタッフそれぞれが自ら学習するなど、自律した行動がとれる事を支援するため、YOUTUBEの限定アカウントを用いて動画配信を開始した。部内で動画配信に同意を得られる者(産休・育児休暇中、時短勤務のスタッフも含む)に任意の時間で学習が行える体制を整えた。

② 事業所間での教育活動のばらつき

当部以外の芦城クリニック、リハケア芦城においても若手の療法士が勤務しているが、それらに対する教育が体系化されていない。これまでは、当教育推進委員会はYMCリハビリテーション技師部内での活動であったが、他事業所スタッフを委員に構成。教育方針、共通項の統一運営を図った。上記動画配信などの共有や、今後事業所間勉強会なども企画している。

③ 療法業務の基本的能力のばらつき

日々の臨床において、療法内容・接遇面など療法業務の基本的能力が、ばらついている事が挙げられる。また中堅者になると、日々の臨床場面で他者に評価、指導される機会が無く、育成の仕組みが十分で無い事がある。従来、臨床における基本能力を担保する事を目的として新人スタッフに対して、各上長が臨床場面に同行する「クリニカルカンファレンス」を実施していた。この仕組みを2年目以降の全スタッフにも応用し日々の臨床を他者に評価してもらう機会を設定した。また評価の際の要項なども整備し、評価者、受ける側の意識改革を図った。クリニカルカンファレンスについてのアンケートを実施したところ、「人に見られる事で療法の根拠や方法を見直す事に繋がった」、「異なる視点で療法のアドバイスを頂いてリハの幅が広がる」などの意見を多数頂いた。

【展望】

今後も各スタッフの自立自転の活動を支援する事を目的として活動を継続していく。

第三部

医師・コメディカル支援業務拡大プロジェクト

病院事務部 医療サービス課 東出 友里奈

【はじめに】

医療サービス課では、医師の事務作業を補助することを業務としている医師事務作業補助者が中心となり、2020年度より「医師・コメディカル支援業務拡大プロジェクト」を立ち上げ、2年にわたり活動している。当プロジェクトの目的は、国が推進する「従事者の負担軽減」と、当院の事業目標である「質の高い医療サービスの提供」を同時に実現させることである。

先ず、タスクシフト、タスクシェアという言葉が飛び交う中、これらの定義を明確にし、各現場業務における小さな業務課題も見逃さないこととした。また、私たち医療サービス課職員が、医師・コメディカルが行ってきた事務的作業へと業務範囲を広げるにあたっては、私たち自身の業務改善と効率化を図った。そして、関係する他職種と協議する場を設け、時に当事者、また調整役として業務改善と役割分担をすすめ最終的には患者にとってもより良い医療サービス・医療環境となることを目指し、活動をすすめてきた。

【取り組み】

- ① 医師事務作業補助業務の見直しとスリム化
- ② タスクシフト、タスクシェアの定義
- ③ 課題の拾い上げ
- ④ 看護師との協議による業務改善の一例について

【結果】

定期的にプロジェクトミーティングを開催し、課題の提起、部内または他職種との意見交換、活動計画の進捗確認を行った。日々問題意識をもって業務に取り組むことで日常業務の効率化を図り、スムーズなタスクシフトに対応することができた。

また、上記④の一例については外来看護師より専門的な業務に専念でき、業務負担を軽減され、結果外来での患者さんの待ち時間短縮になったとの意見があった。

【結語】

当プロジェクトはまだまだ通過点の段階であるが、医療従事者が本来行うべき業務に専念できるように医療サービス課が俯瞰的な視点で調整役を担えることが重要であると考えます。医事業務を専門とする私たちがこのような業務拡大を目指す最大の意義は、患者へのよりよい医療サービス提供の一助を担えることである。そのためには、私たち医療サービス課は人材の育成を推進し、部内においても相互理解を深め、一丸となって取り組んでいきたい。また、このプロジェクトが私たちの意識や考え方を変えるきっかけとなったことが大きな成果ともいえる。

逆紹介推進支援プロジェクト

病院事務部 医療サービス課 中井 友香里

【はじめに】

「逆紹介」とは病状の安定した患者を紹介元のかかりつけ医や地域の医療機関に紹介することを指す。国は2021年5月に、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律：改正医療法を設立し、「外来機能報告制度」を創設した。これは、外来医療における機能分化をすすめ、「かかりつけ医」をまず受診し、そこから「高機能の病院外来」を紹介してもらい、という患者の流れを強化することで「病院勤務医の負担軽減」「外来医療の質向上」を目指す仕組みである。

当院の外来機能においては、運動器疾患と循環器疾患を中心とする急性期・専門医療を担い、地域住民のかかりつけ医としての役割も担っている。そのような中、紹介率・逆紹介率を把握することは、今後の当院の機能の在り方を図る指標として重要であると考え。また特に病状変化のない慢性疾患の患者をかかりつけ医へ逆紹介を勧めていくため、逆紹介推進支援プロジェクトを立ち上げた。当プロジェクトは、紹介率・逆紹介率を把握するとともに、適切な逆紹介をすすめていくことを最優先課題とし、地域との病診連携強化へと波及していくことを目指している。その取り組みについて報告する。

【取り組み】

医事・医師事務作業補助者でメンバーを構成。

(1)：逆紹介数の把握

①紹介率・逆紹介率の定義を確認、実数の把握

(2)：逆紹介推進

①逆紹介基準（診療科別、医師別）の作成

②基準を満たす対象患者のリストアップ

③校下別医療機関一覧表の作成

④患者への案内・誘導について医師と打ち合わせ

【結果と課題】

これまでは患者からの希望中心で逆紹介を行ってきたが、逆紹介が当院だけでなく患者側にも有益で最適な選択となるような体制作りを目指した。まずは計画的にすすめていけるよう、紹介基準をもって対象者をリストアップし、医師に提案することとした。が、リストアップした患者は数が多く、事務的に一斉に逆紹介を行うことはプロジェクトの意図するところではないと判断し、個別の症例を一つ一つ確認する方法に変更した。また、患者一人ひとりの気持ちに寄り添えるよう、丁寧な対応を心がけることとした。

今後、スムーズな逆紹介を行う為には、看護師・地域連携・事務が連携し支援を行うことが必要であると感じている。あわせて、患者にも「かかりつけ医を持つ」という意識付けの啓発や、紹介、逆紹介を通じ病診連携・病々連携強化への波及効果についての検証ができればと思う。

【結語】

医療事務職員は直接的な医療行為が出来ないことを理由に、受け身で行う業務が多いと感じていたが、今回のプロジェクト活動を通して、目的を明確にし、意識を変えることで、自発的な業務が出来るということを実感できた。またよく考え、学び、知識を得る機会となった。現場での小さな一つの逆紹介が、病院の方針に大きく影響することを意識し、業務に携わることの重要性を改めて感じた。今後もより良い医療サービス提供に繋げていけるよう努力したい。

「ひざトレーナー」サービス導入に向けた活動

北陸体力科学研究所 川向哲弥

【背景および目的】

ロコモティブシンドローム予防として、電気刺激を用いたハイブリッドトレーニング装置（以下 HTS）が注目されている。HTS は歩行などの運動中に拮抗筋に電気刺激を行い収縮させることで、主動筋に受動的な抵抗を加えるトレーニング装置である。実際に、HTS を活用した歩行トレーニング（以下 WHTS）により、歩行速度が改善されることが報告されている。しかし、運動習慣のある人を対象とした WHTS のトレーニング効果については十分に明らかになっていない。ダイナミックでの導入には、運動習慣を有する高齢者においてもトレーニング効果が認められるかを検証する必要がある。したがって、WHTS 導入に前もって、運動習慣のある高齢者に対する WHTS トレーニング効果を明らかにすることを目的にトレーニング効果検証を行った。

【方法】

対象は習慣的に運動施設を利用する変形性膝関節症を有する女性高齢者 14 名（平均年齢 72.3 ± 5.5 歳）で、介入開始前月の平均来館数 21.0 ± 5.4 回/月（27 営業日のうち）であった。対象者は通常の運動施設利用に加え、週 2 回、8 週間の WHTS を行った。予備実験より、HTS 着用の有無による歩行トレーニングへの意欲の差異が顕著に見られたため、本研究では対照群は設けないこととした。WHTS では電気刺激機器であるひざトレーナー（Panasonic 社製）を使用して、30 分間行った。介入前後およびトレーニング開始 4 週間後（以下中間時）に 10m 最大歩行テストを行い、歩行速度、歩幅、歩行率を測定した。統計検定では Turkey-Kramer 法を用いて多重比較を行った。

【結果および考察】

対象者 14 名のうち、1 名が体調不良により脱落した。介入前後および中間時の歩行速度はそれぞれ、 1.99 ± 0.27 m/s、 2.03 ± 0.26 m/s、 2.18 ± 0.33 m/s であり、介入前に比べて介入後が有意に高値を示した（ $p < 0.01$ 、Cohen's $d = 0.63$ ）。本活動により、ダイナミックを利用していただいている方においても「ひざトレーナー」を用いることによって歩行速度の改善効果を期待できることが示唆された。

【導入後の経過】

導入に向けて月額サポートと販売後サポートの 2 種類で導入している。また、同時期に開始した歩行能力測定会の待ち時間に体験を実施している。月額サポートを利用している方からは、「膝に力を入れて歩く感覚が身についてきているように感じる」などの評価を得ている。しかし、いまだに利用者数は少なく、販売促進が課題である。

石川県のジュニアアスリートの見る力を知る

～Vトレーニングを使ってスポーツビジョンを測る～

(公財)北陸体力科学研究所 運動指導員 吉田 純

【はじめに】

人が受ける情報の8割は視覚からと言われ、スポーツをするうえでも視覚は重要な要素とされている。しかし、石川県においてはアスリートのスポーツビジョンの測定やトレーニングは積極的に行われていない現状である。そこで、ノエビアグリーン財団の助成を受け、V-training 機器を使用してのスポーツビジョン測定で「見る力」を知り、さらに競技に活かすことができないかと考えた。

ジュニアアスリートを対象に視力検査、スポーツビジョン測定を行い、視力の矯正が必要な場合は、まず眼科での視力の矯正を勧め、視覚の矯正にはスポーツビジョントレーニングの実施を提案した。また、継続的なビジョントレーニングを行うことで視覚が改善されると想定し、石川県のジュニアバドミントン選手で検証した。

【対象】

今回は、県内在住の部活動またはクラブチームでスポーツをしている小学生～高校生(10歳～18歳)184人を対象に測定を行った。内訳は男子129人、女子55人。視力矯正者は55人であった。

【測定方法】

測定の前にアンケートと問診を実施。その後、①静止視力、②KVA 動体視力、③深視力、④目と手の協応動作、⑤瞬間視、⑥空間認識、⑦周辺部の感知力の6項目を測定。①、②はコーワ AS-4C で測定。③はコーワ AS-7JS₂ で測定。④～⑦は V-training 2G で測定。それぞれ日本スポーツビジョン協会が定める測定方法に基づいて測定を行った。

また、ジュニアバドミントン選手3人については30分のビジョントレーニング(6種目)を週に1回、8週に亘って行った。

【結果】

視力検査の結果がA判定(1.0以上)に満たない、静止視力が0.9以下だった選手は全体の32%であり、そのうち裸眼の選手は59%、矯正している選手(コンタクト及び眼鏡使用)は41%であった。

V-training 2G を使用しての測定において、バドミントン競技者の「周辺部の感知力」における600mmでの計測で二つ正解している人は、一つ正解の人に比べて、「目と手の協応動作」のタイムが早いことがわかった。

継続的なビジョントレーニングを行った選手においては、3人中2人は最終測定で「目と手の協応動作」のタイムが短縮し効果がみられた。

【まとめと今後の取り組み】

スポーツビジョン測定をすることで、視力検査ではわからない「見る力」を知ることができた。また、正しく矯正できていない選手が多かったため、矯正を促したうえでスポーツビジョントレーニングを実施していくことが必要と考える。今後はパフォーマンスとの関係を見ていくとともに、「見る力」の重要性を啓発していきたい。

第 8 回 業務改善活動発表会(2022.1.28.)

『小松市における通いの場(サロン)実施状況のアンケート調査ーコロナ禍の影響と今後の対応ー』

丸内芦城高齢者総合相談センター(フレイル予防機能強化型センター)

芦城クリニック 総合相談課

理学療法士 山崎晋平

はじめに

高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)は、小松市の委託を受けて設置された機関で、高齢者の相談窓口です。小松市内には日常生活圏域毎に計 10 か所の高齢者総合相談センターがあり、個別相談だけでなく、地域活動の支援や見守り活動なども行っています。

その中でも当センターは、フレイル予防機能強化型の追加委託を受け、市内全域を対象として、フレイル予防に関する様々な活動に取り組んでいます。

地域活動の支援や見守り活動

地域活動支援の 1 つとして、市内全域で行われている通いの場の支援を行っています。小松市では、いきいきサロンと、ゆったりサロンという住民主体の通いの場があり、介護予防や高齢者の見守り活動などの役割があります。

通いの場(いきいきサロンなど)を新規開設する際には、サロン代表者や民生委員などの相談や支援も行っています。また、通いの場をセンター職員が訪問し、地域住民の実態把握やサロン参加支援・感染対策への助言なども行っています。

フレイルセンターとしては、健脚推進ボランティア・サロン代表者への研修会や、サロン参加者へのフレイル講話を行ったり、サロンの実施状況のアンケート調査なども行っています。

サロン実施状況のアンケート調査

コロナ禍で、全国的にはサロンの中止や縮小、要介護度の悪化や変更申請の増加などの影響が報告されています。

2021 年 10 月に小松市でのサロン実施状況を調査する目的で、市内 211 か所のサロンにアンケートを配布し、197 か所のサロンからアンケートが回収できました(回収率 93.4%)。

サロンの開催状況は、新型コロナウイルス感染者数の変動に伴い増減している様子でした。なお、2021 年 10 月時点では、182 か所(92%)のサロンが再開していました。しかし、サロン参加者数が減少したと答えたサロンが 141 か所(72%)ありました。また、各サロンで参加者が約 3 人減少しており、小松市全体で約 600 人減少している可能性がありました。以前から閉じこもりと要介護移行率が関係することは知られていますが、コロナ禍で外出を自粛したことでフレイルが進行した可能性があることも報告されています。さらに、アンケート調査では、新規参加者数の減少、健脚推進ボランティアの後継者不足、サロン内容のマンネリ化など様々なご意見を頂きました。

今後は、コロナ禍でサロンに参加できなくなった方を含めて、地域の方にフレイルやサロンの有効性について、普及活動を継続していく必要があると思われます。そのためにも、今まではサロン参加者への講話を中心に行ってきましたが、老人会など様々な団体への働き掛けも行っていければと思います。また、健脚推進ボランティアの後継者不足に対しては、今年度も引き続き養成講座の講師を担う予定となっています。

健康増進センターアエール芦城の2年間の歩み

【はじめに】

「健康増進センターアエール芦城」は疾病予防のための42条施設として芦城クリニック内に2019年12月にオープンし、2年が経過した。2年間で308名が入会し（男性：95名、女性：213名）、現在の利用者は208名（うち休会者25名）となった。紹介元は芦城クリニックが35%（外来リハ：23%、整形外来：5%、内科外来：7%）、YMCが26%（入院リハ：12%、外来リハ：6%、整形外来：6%、内科外来：2%）、総合事業が11%、ロコミが28%であった。利用者の平均年齢は69.0±13.2歳、主疾患は整形疾患が68%、生活習慣病が11%、脳血管疾患が9%、心疾患が4%、呼吸器疾患が1%、なしが7%であった。サービス継続率は6ヶ月継続者が70%、12ヶ月継続者が60%であった。2021年11月の1日あたりの平均利用者数は29.9人であった。

【利用者増により生じた課題と業務改善】

利用者増により生じた課題として1. 運動スペース不足、2. 利用者層の多様化、3. 人員不足、4. 駐車スペース不足などが挙げられた。そのため、1に対して外来リハスペースの一部を別室に移し、運動スペースの拡大を図った。2に対しては、多様な利用者層に運動の効果や課題を分かりやすく提示出来るように、体力測定結果を年齢表記で行えるよう修正を行った。また、長期利用者のマンネリ化防止の対策も兼ねて、マシン以外の運動種目としてマットスペースで行うエクササイズを3種目→8種目、立位や座位で行えるエクササイズを3種目→10種目に増加した。さらに、個別のニーズに対応できるようにパーソナルサービスの質の向上を図り、パーソナルサービス実施後は必要に応じてオリジナルの体操用紙を作成・提示するようにした。3に対しては、各種エクササイズはいずれも時間になると自動でモニターに動画が流れるように設定したことで、プログラム運営にかかる手間を削減した。4に対しては、利用者が集中する時間を分散するために時間帯別の利用人数や市営駐車場の案内をしているが、今もなお不足することが多いのが現状である。

【サービスの効果】

対象は2020年4月～2021年11月の期間に6ヶ月評価が行えた104名（平均年齢：69.8±10.4歳、男性31名、女性73名）とした。アエール芦城の6ヶ月の利用により、疼痛（NRS：3.4→2.3）、握力（24.0kg→24.4kg）、膝伸展筋力（29.6kg→30.3kg）、最大歩行速度（1.36m/s→1.50m/s）に有意な改善を認めた。体重、筋肉量、体脂肪率には有意差を認めなかった。

【今後の課題】

利用者増の要因として、YMCや芦城クリニックのリハビリ技師部や整形外科医師との連携が図れていることが考えられる。一方で、42条施設本来の対象疾患である生活習慣病等の内科疾患の割合が少ないため、今後YMCの内科外来や心臓リハビリテーション、健診センター等とのさらなる連携が必要であり、そのためにはアエール芦城で対応可能な対象者やサービス内容について整理・共有する必要があると考える。また、駐車スペースの不足に対して、混雑する時間帯に近隣の駐車場を借りるなどの対策や、営業時間・人員体制についての検討も必要であると考えられる。

在宅復帰後のリハビリテーション無支援中に生じる歩行能力の変化に着目して

やわたメディカルセンター健康スタジオ加賀温泉駅前

上野 弘樹

【はじめに】

健康寿命の延伸に向けて、医療機関を退院後の在宅生活中においても日常生活動作（以下、ADL）の自立度向上を図り、社会参加を促進させていく必要がある。また厚生労働省より、退院後 2 週間未満に通所及び訪問リハビリテーション利用を開始することが ADL 自立度の向上に効果的であると報告されている。しかし、在宅復帰後のリハビリテーション(以下、リハ)の支援までに要する期間が長く、退院時よりも身体機能低下を来すことがある。そこで、やわたメディカルセンター退院時（以下、退院時）と当事業所利用開始時（以下、利用開始時）の歩行能力変化を明らかにした上で、当事業所の利用後の効果について報告する。

【利用開始時の歩行能力変化と利用効果】

やわたメディカルセンター退院後に当事業所の通所型サービス A（以下、A 型）または短期集中予防サービス（以下、短期集中）を 2020 年 5 月～2021 年 7 月の間に利用され、利用開始時及び利用 6 ヶ月後の歩行速度測定と Frenchay Activities Index（以下、FAI）を用いた生活関連動作評価が可能であった 8 名を対象とし、退院後の歩行能力変化等を分析した。なお、退院後に地域医療機関にて外来リハを受けた者は対象から除外した。対象の性別内訳は男性 3 名、女性 5 名であり、平均年齢は 78.0 歳、平均入院期間は 47.4 日、退院から利用開始までの平均日数は 188.8 日であった。

各時期の歩行速度の中央値は、退院時 $1.02 \pm 0.21 \text{m/s}$ 、利用開始時 $0.95 \pm 0.28 \text{m/s}$ 、利用 6 ヶ月後 $1.17 \pm 0.31 \text{m/s}$ であり、63%が退院時よりも利用開始時に歩行速度の低下を認めた。利用 6 ヶ月後には利用開始時よりも全例で歩行速度が向上し、88%が利用 6 ヶ月後に 1.0m/s 以上に至った。また利用前後の FAI の中央値は、利用開始時 22.0 ± 18.9 、利用 6 ヶ月後 24.0 ± 21.4 であり、88%が利用後に向上した。

【健康スタジオ加賀温泉駅前の特徴と課題】

当事業所の特徴として、在籍職員が療法士のみであり、介護予防サービスとしては全国的にも稀な事業スタイルをとり、A 型及び短期集中での通所支援では 90 分間/回の利用時間に集団運動と教養活動を行い、利用者が利用時間以外も地域で活動的な生活が送れるように支援している。また、短期集中では外出先等へ訪問支援も実施し、利用者の社会参加の実現を図っている。

今回の分析結果より、退院から利用開始までの期間が長く、退院時よりも利用開始時に歩行速度が低下している割合が過半数を超えていることが分かった。また、歩行速度 1m/s 未満では転倒リスクが高くなることが報告されており、介護予防や疾病予防を図る上で在宅復帰後の歩行能力低下は重要課題である。一方で、健康スタジオ加賀温泉駅前でのリハビリテーション支援により、退院後においても歩行能力を向上させ、社会参加の拡大に寄与できていることが明らかとなった。

退院から利用開始までに長期間を要している課題に対しては、加賀市役所や地域包括支援センター、各地区ブランチ、地域医療機関へ退院後できるだけ早期にリハ支援を導入することが介護予防に効果的であることを説明し、退院後のリハ支援等に関するブランチからの相談にも対応する取り組みを行っている。その後、2021 年 8 月以降では、医療機関を退院後に利用開始までに要した期間は平均 16.5 日（4 名）であり、改善されてきている。今後もサービス向上を図り、加賀市の高齢者の方々の介護予防と健康増進に努めていきたいと考える。

第9回業務活動発表会



～抄録集～

部門の取り組みや業務改善、学会発表などの活動を発信、
今後の運営に活かします。

教育推進会議分科会 学術・年報部門

【第1部】

ハートネットワーク検討会 予防運動プロジェクトチームの活動報告と今後の課題
リハビリテーション技師部 岩佐和明

ハートネットワーク検討会 疾病管理チームの活動報告と今後の課題
看護部外来 石田絵実

6階病棟退院支援分科会の活動報告 ～1日行動を用いたケアの工夫～
看護部6階病棟 嵐奈津子

とろみサーバー導入について ～より安全な水分提供を目指して～
看護部3階病棟 谷口博紀

プライマリ・ケア看護師の役割 ～家族看護アプローチを通して～
訪問看護ステーションリハケア芦城 宮本由香里

地域から選んでいただける事業所を目指した接遇改善活動の取り組み
在宅サービス部 正木輝美

事業所の紹介動画を作成した広報活動の報告
在宅サービス部 北山彩香

PX推進室 活動報告
PX推進室 安田忍

『看護相談外来』開設に向けて ～中間報告～
看護部外来 山崎松美

【第2部】

処方オーダー適正化に向けた「終了日変更システム」の構築

診療技術部薬剤課 梅元晃美

錠剤自動仕分返納装置(ジーニー)導入前後における業務負担の変化

診療技術部薬剤課 東昌代

タスク・シフト/シェア ～糖負荷試験について～

診療技術部検査課 吉田莉緒

発熱外来における検査技師の役割

診療技術部検査課 北村真悠

心臓カテーテル検査・治療における清潔野介助業務 ～循環器内科医師とのタスクシェア～

診療技術部臨床工学課 坂下広樹

新体制となった事務部の取り組み ～医療事務の目線から～

事務部医事サービス課 山田和穂

こまつスポーツ大学3年間の成果と課題

北陸体力科学研究所ダイナミック 川崎彰悟

石川県のジュニアアスリートの見る力を知る

北陸体力科学研究所いしかわ総合スポーツセンター 木下直樹

第 1 部

演題 ハートネットワーク検討会 予防運動プロジェクトチームの活動報告と今後の課題

演者 岩佐和明¹⁾、堀田陽平²⁾、小池順³⁾、高木洋之⁴⁾、喜田恵⁵⁾、琴野巧裕⁶⁾

所属 リハビリテーション技師部¹⁾、アエール芦城²⁾、ダイナミック³⁾、在宅サービス部⁴⁾、
検査課⁵⁾、診療部⁶⁾

【はじめに】

ハートネットワーク検討会の予防運動プロジェクトでは、循環器疾患を罹患している患者・利用者の治療度と活動度に応じた治療・予防サービスの展開を各事業所と連携して行うことを目的としています。急性期入院医療では低負荷高頻度プログラムとADLプロトコルによる早期ADL改善を目指し、外来医療では外来心リハ修了後の非監視型健康増進サービス(ダイナミックやアエール芦城)と連携し、回復期心リハ後も持続可能な予防運動サービスのための開発を行いました。今回、外来心リハと予防サービスに関して現状と課題について報告します。

【予防運動プログラム】

循環器疾患の予防運動を行うに際し、リスク管理と運動負荷を考慮したプログラムの立案が大きな課題として考えました。この課題解決として、疾病管理上のポイントや運動に関連した運動耐用能の考え方や漸増運動負荷プロトコル(以下:予防運動プログラム)を各事業所スタッフと共同して作成し、基本対応の標準化に取り組みました。

【外来心リハと非監視型健康サービスとの連携】

外来心リハは、循環器医師や各コメディカルが共同して、集団による運動療法や疾病教育を行う監視型の医療サービスです。一方で、グループ内の非監視型健康サービスとしては、ダイナミックやアエール芦城が、保健サービスとして存在しています。今回、予防運動プログラムの取り組みによって、外来心リハ修了者の変化について調査を行いました。コロナ禍前の2018年12月1日から2019年12月1日の期間における新規外来心リハ患者58名中、各運動施設への紹介数は7名(12%)、検討会活動開始後の2021年12月1日から2022年12月1日の新規外来心リハ患者28名中、各運動施設に紹介したのは6名(21%)でした。

【考察】

地域の保健、医療、介護との連携においては、まずは共通した認識を持つことが重要となります。今回、短期的ではありますが医療と保健サービスの移行割合が増加傾向にあったのは、予防運動プログラムの作成を各事業所のスタッフと共同で行ったことで、一方通行な知識の補完ではなく検討会を通じて顔の見える関係性と共通認識が得られたからと考えます。一方で、外来心リハが開始から5か月を標準としていたものが、社会情勢や診療報酬動向を考慮して3か月を基本としたことも、早期から医療を脱却してセルフコントロールに移行する機運が生じているとも考えています。いずれにせよ、我々の取り組むべきは、患者・利用者が継続的に健康な生活が送れるように最適なサービスの提供を行うことであると考えます。

【今後の課題】

グループ全体を通じたサービスの効果検証と地域で類のないサービス構築に向けた継続的改善を行っていくこと、全ての地域住民が当グループが提供するサービスで収まるわけではないため、グループ外のかかりつけ医や他事業所との連携を図り、地域包括ケアシステムの構築に貢献していく必要があると考えます。

演題 ハートネットワーク検討会疾病管理チームの活動報告と今後の課題

演者 石田絵実¹⁾、石田香織²⁾、滝野昌美¹⁾、竹内彩子¹⁾、中村美紀³⁾、漆原真姫³⁾、琴野 巧裕⁴⁾

所属 看護部¹⁾、リハケア芦城²⁾、診療技術部³⁾、診療部⁴⁾

【はじめに】

ハートネットワーク検討会は、地域の保健・医療・介護の連携・協力による循環器疾患の予防・改善の在り方や体制づくりについて検討・実現することを目的とし活動している。また、検討会内の疾病管理チームは、スタッフ教育を優先課題とし、2021年度には在宅サービス部、リハケア芦城と心不全に関する勉強会・情報交換を実施してきた。さらに、疾病管理に関する情報の一元化と入院、外来、在宅サービスと継続看護が行っていただけることを目的に心疾患重症化予防連携シート(以下:連携シート)を作成し、介入を行っているの以下に報告する。

【連携シート】

病棟・外来・訪問看護師が中心となり薬剤師、管理栄養士、理学療法士の意見を踏まえ、連携シートを作成した。シートには、循環器疾患に関連する基礎情報、動脈硬化予防、心不全予防、薬剤・栄養指導情報などが入力できるようになっている。運用例としては、心不全で入院となった場合であれば、症状に関する振り返りや受け止め、増悪因子を看護師と考えながら退院後の計画を立て。退院後は診察時に外来看護師が自宅での実行状況の確認や別方法の提案を行う流れとなっている。次に、心不全で退院後に、病棟での支援を踏まえて看護外来で継続的に介入を行った一例について報告する。

【実践と結果】

今回、1年以内の入院が2回目となった80代、男性で診断名は慢性うっ血性心不全急性増悪、高度大動脈弁狭窄症、貧血症を有しており、ADLは自立し息子さんとの二人暮らしであった。入院看護計画では、塩分制限、水分摂取の目安、心不全手帳(血圧、体重、むくみ)を用いた自己管理の再調整・確認に加え、前回の退院後も課題となった配食サービスの利用、低活動予防・改善のための包括センターへの相談について提案を行い入院9日で退院となった。約3週後の外来診察時には、配食サービスを利用し満足され、心不全手帳も記入し体重増加の目安についても自己表出できていた。追加で、減塩タイプの味噌汁と低活動改善のための歩行を提案した。その1ヶ月後の受診時には、軽度浮腫が観察できたが自己管理は継続され、歩行習慣に関しては獲得には至っていなかった。

【考察】

連携シートを作成したことで、本人と症状や増悪因子に関して振り返りながら退院後の計画を立てることができ、退院後も入院中からの情報を元に、在宅の実行状況を把握し提案が行えるようになったと考える。一方で、鷺田らはチームが果たすべき役割は、患者の望む生活をできる限り支援することであり、1つの方策として疾患の増悪予防や症状コントロールなどの疾患管理があるに過ぎないと述べている。今回の事例においても、疾病管理が主ではなく患者毎の望む生活を支援することを十分に理解し、今後も継続できに支援していく必要があると考える。

【今後の課題】

看護外来での支援をどれだけ診療と差別化できるか、患者さんにとって効果や望む生活が得られるかといった課題から、グループ内の事業所だけではなくグループ外の介護施設などでも継続的に支援できる方法を相手方の状況も踏まえて、共同的に構築していく地域共創活動が必要であると考えている。

演題 6階病棟退院支援分科会の活動報告 ～1日行動を用いたケアの工夫～

演者 嵐 奈津子¹⁾、吉田彩乃¹⁾、松本香菜子¹⁾、大田脩介²⁾、高崎 都¹⁾

所属 看護部6階病棟¹⁾、リハビリテーション技術部²⁾

【はじめに】

急性期病棟では、発熱や絶食、低酸素などの急性症状によりせん妄が誘発されやすい環境である事に加え、入院前からの認知症有病率が増加していることで、ケア対応時間の増加や退院支援活動の弊害となることがある。そこで、6階病棟の退院支援分科会では、①能率的なカンファレンスを実践すること、②その人らしさを活かしたケアと在宅連携をすること、③事例を通した退院支援の経験的学習を積むことを目的とし活動している。今回、せん妄患者・認知症高齢者のその人らしさを活かしたケアの提供と退院後生活を支援するために、1日行動表を作成し試験導入を行った。以下に、事例を通した気づきと今後の課題について報告する。

【1日行動表】

入棟後に点滴自己抜去や夜間の過活動などせん妄状態や認知症による問題行動を認めた患者を対象に、1日行動表を元に行動観察を行った。1日行動表は、24時間の行動を1時間毎に0～10の11段階で0を低活動、5を適性活動、10を過活動と活動度を数値化したものである。また、補足欄に具体的行動を分類し、簡易的に記載できるよう作成を行った。行動観察から行動パターンや、個々の認知能力や生活史を元に、ケア対応の工夫を協議し実践を行った。

【業務実践と結果】

事例1：入棟後に離室行動、点滴抜去行動が観察されたため1日行動表を使用し観察を行った。夕食頃より不穏行動、夜間帯の頻回な排泄行動が観察できた。重度難聴も重なり、元の生活場所の施設への帰宅行動と環境変化によるせん妄状態であることが推察できた。そこで、筆談を用いた丁寧な情供説明と施設環境に近づけた環境調整を行った。その後、帰宅行動が消失し夜間帯の睡眠活動も改善に至った。

事例2：以前より幻覚症状があり夜間帯にかけて幻覚が現れると不穏行動になり、頻回な離床となっていた。そのため夜間の適切な睡眠・休息を確保することができていなかった。そこで、幻覚症状が出現時、居室から一時的に離れ視点を変えることで落ち着きを取り戻すように対応すること、自室照明を明るめにするすることで幻覚による見間違いの錯覚の対応を行った。対応後、幻覚が消失し朝方まで睡眠できたことが観察できた。

【考察】

認知症高齢者特有のアセスメントには、24時間の生活の中での詳細な行動を脚色なく観察、その行動がなぜ生じているのか、生活にどのように影響しているのかを評価し、本人の思いを引き出し、その人特有の情報を得ることが必要とされている。1日行動表をツールとして、簡易的ではあるが24時間の行動を観察し、その行動の原因を考え、関わり方の工夫を行ったことで適性活動度が遂行された事例を経験することができたと考える。

【今後の課題】

せん妄・認知症状が過活動になる場合は、ケア対応の対象となりやすいが、低活動の場合は対象となりにくいことや1日行動表を元に、実践されたケア計画や工夫点を在宅サービスと効率的に共有し退院支援へと発展できるかが今後の課題と考える。

とろみサーバー導入について～より安全な水分提供を目指して～

看護部 3 階病棟 谷口博紀

<はじめに>

10 年程前よりとろみセットを活用しているが、ベッドサイドが不衛生、とろみ茶作成に時間がかかるなど課題を認めていた。これらの課題を解決し、患者さんにより安全な水分提供ができるよう、とろみサーバーの導入を行った。その取り組みについて報告する。

<方法>

とろみサーバー導入にあたり、必要物品の検討、とろみ茶作成のタイムスケジュールについて検討した。また、業者とのとろみ調整を行った。導入 3 ヶ月後に使用状況について評価を行った。

<結果>

とろみサーバー導入により、とろみセット活用時の課題が解決され、より安全に水分提供ができるようになった。とろみ茶作成時間が短縮されることで、タイムリーな水分提供、スムーズな業務移行が可能となった。

<今後の課題>

味の好みに対しては今後もメーカーと相談しながら対応していく。他病棟への対応についても検討していく。

【症例】 80歳代 男性 【診断名】間質性肺炎 在宅酸素3L

【実践した看護支援】本人が退院を強く希望し、退院カンファレンスでは病棟看護師から退院後のケアの方法について説明されたが、次女が積極的に話をして長女は黙っていた。訪問看護師は家族へのアプローチが必要と考えた。まずは、長女に介護に対しての思いを聞くことにした。1対1になると長女は泣き出し、できるだけ介護したいと思いを話したため、傾聴し支えていくことを約束した。次女は母や姉には任せられないと思ひ、自分が何とかしなければと思っていた。

渡辺式家族アセスメント/支援モデルを用いて、家族全体が介護に関れるように支援方法を検討した。本人は嚥下困難もあり、咳込みであまり食べるができなかった。妻や長女は介護が初めてで戸惑っていたため、訪問看護師が1日2回訪問し、介護を一緒に行うことによりケアに関わるようになり、次女とも同等の立場でできるようになった。呼吸法なども指導しながら不安の軽減に努めた。次女の力が強いと思っていた家族だが、本人のケアを通して皆の心が一つになっていった。家族で全力投球し、11日後に永眠された。

【考察】

療養者を含む家族をエンパワメントする情報として、家族ストレス対処理論を基本的枠組みとして、家族像を形成するための6つの視点（健康問題の全体像、家族の対応能力、発達段階、対処経験、家族の対応状況、家族の適応状態）がある。まず、全体像の把握としてジェノグラムを作成し課題の抽出を行った。家族のパワーバランスが不均衡であると感じ、家族間の調整を図った。面談により家族とラポールを形成しながら、訪問看護師がファシリテーターとして、長女が思いを伝えられるように働きかけ、本人が安楽に過ごせるように、家族が皆で支援していきたいという合意形成を図ることができた。

本人も家族からの支援を受けながら、大黒柱として大事にしてきたことを皆に伝えることができ、家族の発達段階のステージ6において自身の死の準備を行えたと考える。次女も自分がしっかりしなければという思いから優位に出ていたが、訪問看護師の介入により妻や長女を支援してくれているという安心感が芽生え、一緒にサポートするという役割に変わった。家族の対応状況を見ながら、身体的・精神的負担感が強くないように援助し、昼夜問わず緊急時の対応を行うことにより、訪問看護師も達成感を味わった。

今回、家族志向のアプローチとして、療養者と家族を一つのユニットとして捉え、その人の尊厳を守り、その人を取り巻く環境にも働きかけることの重要性を理解できた。そして、面談技法を取り入れて場の設定や家族全員の意見を聞いてほめることを積極的に取り入れることで、家族の課題が明確になり、アセスメント・評価まで進めていくことができた。

今後も家族アセスメントや臨床推論、行動変容などの理論に基づいた看護を行うことで、チーム全体でプライマリ・ケアの質を高めていきたい。

地域から選んでいただける事業所を目指した接遇改善活動の取り組み

発表者：在宅サービス部 正木輝美

在宅サービス部：松川 啓子、北村 智子 大土育栄、安多 梓

【はじめに】

在宅サービス部は地域の皆様に「選んでいただける事業所」になることを目標としています。その「選ぶポイント」として利用者やケアマネジャーが重要視しているのは、スタッフの「接遇」です。そこで私たちは一人一人が「事業所の顔」であるという事を自覚し、「やわたを利用したい、やわたなら信頼できる。」と言っていただけよう、部門として「接遇面の強化」に取り組んでおります。今回は、その取り組みを紹介し、利用者アンケートの結果などをもとに考察します。

【在宅サービス部独自の取り組み】

- ・演習を交えた勉強会を開催（年 1～2 回程度）
- ・接遇マニュアルを用いた接遇の振り返り
- ・接遇に関する記事・情報等の共有（毎月）

【結果】

◇利用者アンケートにおける満足率（在宅サービス部の平均値）

「職員の言葉遣いや身だしなみ」・・・2020 年度：86.8%、2021 年度：81.3%、2022 年度：97.0%
（前年比+15.7%）

「職員は親身になってくれるか」・・・2020 年度：80.8%、2021 年度：78.5%、2022 年度：89.8%
（前年比+11.3%）

◇やわた健康スタジオの紹介件数（1 月～12 月比）

2020 年度：68 件、2021 年度：74 件、2022 年度：94 件（前年比+20 件）と口コミでの紹介が微増

◇通所プログラムの改善

スタッフによる利用者への声かけが増え、その会話の中から利用者の「思い」や「新たなニーズ」を見つけ、新たなレクリエーション活動の企画や提案が増えた。

【今後の課題】

接遇に関する勉強会や振り返り、関連記事の共有などを行った事により、スタッフは自然と接遇を意識することで、接遇改善が日常的になり、より良い行動が出来るようになったと思われま

す。また利用者「元気になって欲しい」「楽しい時間を過ごして欲しい」というスタッフの思いや個々への関わり方が変化したことで、通所サービスにおける余暇活動の充実などにも繋がってきたと感じています。

しかし、接遇はその人の受け取り方次第で 0 か 100 になる事がありますので状況やニーズに合わせた柔軟な対応が求められ、スタッフによる対応に差が生じないようにする事も大切です。

スタッフ全員が更にスキルを身につけ質の高い接遇が出来るように、今後も勉強会などを継続し、「選んでいただける事業所」になれるように改善していきたいと思

事業所の紹介動画を作成した広報活動の報告

演者：北山彩香、古河 円、高木洋之、酒井有紀

所属：やわたメディカルセンター 在宅サービス部 通所課

【はじめに】

在宅サービス部ではサービスの理解を広げたいという思いから広報担当を置き、2021年度より活動をしてきた。2022年6月には利用時間やサービス内容をまとめたパンフレットを新しく発行し、広報誌を毎月発行するなど工夫を行っているが、実際の運動内容や雰囲気伝えることは難しかった。そこで、事業所での活動などを知っていただくために、紹介動画の作成を試みたので、その内容を紹介する。

【取り組み】

- ① 作成した動画：「対象者や手続きの紹介」「通所サービスの紹介」「スタッフ紹介」を、それぞれ3分以内の動画にまとめた。
- ② 動画の発信方法：やわたメディカルセンターのホームページに動画を掲載した。動画ごとに作成したQRコードを毎月発行している広報誌に添付し、居宅介護支援事業所や高齢者総合相談センターに配布した。

【結果】

動画の反応

- ・ 利用者、家族：「どんな運動をするのか心配していたため、実際に見ることができて良かった。」と不安に感じている方も、集団で運動を行っている様子や運動以外の時間の活動などを事前に知れたことで、安心して利用を開始することができた。
- ・ ケアマネジャー：利用者への説明がしやすくなり良かった。
- ・ 健康スタジオ スタッフ：実際の雰囲気や利用時の流れなどを視覚的に伝えることができるため、担当者会議の時に動画を使用して説明を行っている。

【結論】

コロナ禍ということもあり、見学が行われにくい現状がある。入院中の方やイメージがわからない方、社会交流や集団運動に苦手意識を持っている方にとって、事業所での活動などを知っていただくために動画や広報誌を使用し説明することは、イメージの共有を行うためにも有効な方法であると考えられた。

スタッフの人柄を知ってもらい親しみやすい雰囲気が伝わることで、信頼関係が築きやすくなるを考える。ケアマネジャーともより良い連携をとっていけるように、必要な情報を分かりやすく伝え、今後はアンケートなども取り、更にニーズに応えられるよう進めていく。

PX推進室 活動報告

PX推進室 安田忍

【はじめに】2001年アメリカ医学アカデミーが報告した医療の質向上のための6つの目標の中でも、患者中心性はその評価指標の一つである患者経験価値 Patient eXperience(以後、PXと略す)は患者のニーズに応じた医療の提供という点で重要になっている。PXに取り組むことは、患者満足度の改善だけでなく、職員の満足度も高まり経営的なメリットにもつながるとされている。当センターは2021年12月27日院長がPXに取り組むとコミットし、2022年4月1日にPX推進室を立ち上げた。9カ月が経過し、その間の活動状況を報告する。

【活動目的】PXが向上する

【活動内容】1. PXサーベイ 2. PX改善活動 3. PX周知活動 4. 改善活動のための組織づくり【活動

結果】活動の結果をPXマネジメント®のフレームワーク可視化→PX改善→構造改革に沿って主な内容を報告する。<可視化>①PXサーベイの実施:9月～11月にわたり日本ホスピタルアライアンスによる全国PX調査に参加した。サービス委員会が中心となり、外来患者回収数871名、回答率77.2%、入院患者回答数155名、回答率34.1%であった。今後、比較・分析等報告がある。②PX自己評価の実施:2022年6月22日～7月1日にわたり、PX研究会日本版サーベイ(入院)を一部改変し、グルボによるセルフ型ネットリサーチで実施した。回答者は178名、回答率37.8%であった。自己評価が高かったのは、「患者を大切にしている」「誠実な対応をしている」だった。③PXミーティング:PXE(Patient eXperience Expert)受講生とともに月1回実施した。PX受講による学びや今後の対策等の共有を図った。④患者さんの声収集:これは2021年度に行われた患者満足度調査のフリートークを収集し、PXミーティングで分析を行い、サービス委員会へ提案するなど実施した。<PX改善>①講演会開催:講師は国立病院機構九州医療センター小児外科医長、メディカルコーディネーター副センター長であり、PX研究会西日本統括マネジャーでもある西本祐子先生、「PXサーベイ導入から8年を経て～九州医療センター実践報告～」をテーマに登壇いただいた。参加者は60名であった。終了後の振り返りアンケート(回答者30名)では、「PXへの理解が深まった」「PX改善に取り組む意義がわかった」が90%以上、「講義の内容が実践に活かそうだ」が65.8%であった。②PXレター発刊:8月から3回発刊した。PX講演会の際にレターの周知について調査したところ、「知っている」と「読んだことがある」を併せて42.2%、「知らない」34.2%、「今後は読みたい」15.8%であった。③PXフォーラム発表:日本PX研究会主催第5回PXフォーラム、テーマ「各国の取り組みから学ぶ～グローバルにおけるPX～」においてPXE3期生からの発表、「PX推進室1年目のサマリー」として活動報告した。<構造改革>PX推進室の業務内容や活動部隊としてのチームづくりが必要であることと、他委員会との連携協力について、職務分掌規定や検討会の規程を作成し、現在検討をお願いしている。

【今後への示唆】PXについての職員認知はまだまだ不十分であり、次年度にはPX研修も検討している。PXサーベイの結果を受けて改善プロジェクト活動を実施、次年度のサーベイで評価をしていく計画である。一方、サーベイだけがPX改善方法ではないので、日頃の業務なかで、患者のニーズを把握し、医療サービスを提供することや、患者とのエンゲージメントを向上するため、コーチングやコミュニケーション能力を高めることも課題である。PX推進室活動を強固なものにするためにPXEの増員とリーダーの人材育成も重要になる。PX改善につながる職員経験価値(EX:Employee Experience)向上のための取り組みにも関わっていききたい。

『看護相談外来』開設に向けて ～中間報告～

看護部 山崎松美

1. 「看護相談外来」開設の目的

- 1) 外来通院患者様の潜在的な問題を見出し、解決を支援し、セルフマネジメント能力向上およびQOL向上を目指した、質の高い外来看護を提供する
- 2) 入院治療を受ける患者様に、外来治療継続に向けたシームレスな看護ケア提供ができるよう、コーディネートする
- 3) 看護師の意欲とスキルを向上させる

2. 看護相談に至る経路：3パターンを想定

- ①患者様自身が相談を希望 → 電子掲示板への掲示の向けて準備中
- ②外来看護師より依頼
- ③医師より依頼

現在は、内科外来の看護師と相談し、糖尿病患者や心不全、急性心筋梗塞患者を対象に、『看護相談』が必要な人を見極めて声かけをしている。

3. 看護相談実績

1) 件数（2022年11月中旬～2023年1月）

- ・外来患者：延べ約140件

（看護師が困難と感じた症例や、1型糖尿病、血糖コントロール不良継続症例、療養意欲が低下しているように思われる患者様などに声かけ）

- ・入院患者：7名【糖尿病患者4名、急性心筋梗塞患者3名】

（治療中断リスクがある糖尿病患者と社会復帰が必要な若年急性心筋梗塞患者）

2) 具体的な実績

- ・糖尿病性腎症4期で透析導入が間近な事例への支援を通して、小松市民病院との連携推進
- ・治療中断後に病状が悪化し受診に至った糖尿病患者への支援
- ・健康スタジオから低血糖症例への対応依頼

→本人・家族に状況確認、医師にインスリン調整を依頼

- ・訪問看護師とインスリン治療困難例への対応方法を相談
- ・看護相談介入患者様が医療者とのトラブルで即時退院を希望 → 話を伺いながら退院指導
- ・嚥下の方で療養行動に危険がある

→病気の特徴が理解されていない可能性があったため、本人とご家族に時間をかけて病気の特徴を説明など

3) 「看護相談」の基本方針と今後の展望

- ・慢性病看護の基本的考え方を基盤に、療養意欲を支え、患者様がパワーチャージできる支援
- ・『看護相談外来』目的に来院する事例が持てることを目指す。
- ・専門知識・専門資格を持つ看護師の活躍拠点にし、同時に看護師が自身の看護感性を振り返り、看護感性を磨く場としたい

第 2 部

【演題名】

処方オーダー適正化に向けた「終了日変更システム」の構築

やわたメディカルセンター 診療技術部薬剤課

○梅元 晃美、東 昌代、高島 恵美、石田 美由紀

当院では長年、入院患者の薬を服用途中で中止や変更する場合、看護部指示(赤指示)が出されるだけで電子カルテの処方オーダーが修正されていなかった。2021年5月に受けた病院機能評価でそのことが指摘されC判定(一定の水準に達していない、改善必要)と評価された。そこで薬剤課では、大新技研(電子カルテ)、TOSHO(調剤システム)、情報統計部と協働し、「終了日変更システム」を構築した。このシステムを利用することにより、処方オーダーが修正されることになり、電子カルテに正しい服薬情報が反映されるようになった。また同時に修正処方箋が発行されたり、看護師による再調剤依頼書の作成が不要になるなど、多くの利点が得られている。発表ではシステムの運用方法、注意点や課題についても報告する。

演者： やわたメディカルセンター 診療技術部 薬剤課

○東 昌代 中出 奈津子 石田 美由紀

演題： 錠剤自動仕分返納装置(ジーニー)導入前後における業務負担の変化

病院における薬剤師業務は、2000年ごろから大きく変動を遂げています。

薬中心の「対物業務」から患者中心「対人業務」に変更となり、病院薬剤師は院内に入院している患者への服薬指導業務や薬物治療が安全に行われているかの確認を行っています。また多職種チームの一員として院内の様々な場面に薬剤師が関わるようになりました。

その一方で病院薬剤師はこれまで通り、院内の処方オーダーに対して調剤業務を継続しています。入院患者の内服薬は患者の飲みやすさや、看護師が管理する利便性を考慮し、飲むタイミング毎にまとめた one dose package(以下、一包化調剤)にしています。しかし、処方修正や処方返品となった場合、その一包化調剤したものをばらして裸錠の再利用を行っています。錠剤には判別のための刻印やマークがついています。それを人間の目で判別し、ダブルチェックを行って再利用しています。

当院の院内での膨大な薬剤師の業務や薬剤師人員不足の問題もあり、この錠剤仕分けにかかる「人の手間」を徹底的に削除できる、「錠剤自動仕分返納装置(以下、ジーニー)」の導入に至りました。

今回の発表では、ジーニーの運用について紹介し、ジーニー運用前後における業務負担の変化について報告したいと思います。

【はじめに】

2019年10月から“医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に関する検討会”が開催され、医療関係職種で「現行制度の下で実施可能な検査」、「法令改正を行いタスク・シフト/シェアを推進する業務」に分別された。実施可能な業務が明示されたことにより、「検査にかかる薬剤を準備して、患者に服用してもらおう行為」ができるようになった。そこで我々臨床検査技師は、過去に院内でインシデントが発生した糖負荷試験^{*1}を検査課で行えないかと検討し、採血に係わるだけではなく薬剤負荷まで検査課でおこなうことに流れを変更した。

【目的】

負荷前（空腹時）血糖値の報告時間から負荷開始までに要した時間を、検査の流れの変更前と変更後で比較し、業務改善につながったかを検討した。

【方法】

変更前：採血、負荷前血糖値の報告があるまで、待合で患者は待機。その後、内科受付へ行っていただき、看護師が飲用の見守りし負荷開始。

変更後：採血、負荷前血糖値の報告を待っている間に、POCT器で測定し、基準を基に検査を進め、生理検査室で飲用見守り負荷開始。

【結果】

負荷前の採血報告時間から負荷開始までの時間を、変更前後で比較すると、変更後の流れの方が約25分短縮している事が分かった。

【考察】

患者さんの待ち時間を短縮できた。看護師・内科受付の業務も少し減らす事ができたと思う。採血のみの関わりから、負荷から負荷後まで全てに関わり、患者サービスに携わられている。

※用語解説

1. 糖負荷試験：糖尿病の有無を調べるための検査。患者さんは空腹で来院。負荷前に採血、ブドウ糖液を飲用後、負荷後30分・60分・90分・・・と採血をして血糖値の変動をみる。

【はじめに】

臨床検査技師等に関する法律の一部改正が2014年6月に成立し、2015年4月1日より検査技師は、医師または歯科医師の具体的な指示を受け、診療の補助として採血に加え、鼻腔拭い液をはじめとする5つの検体採取も担うことが認められた。2020年6月に新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、当院にも発熱外来が設置された。当院の検査技師も検体採取ができる状態であったが、医師が検体採取を行っており、臨床で実践する機会はなかった。その後、発熱外来受診者増加に伴い、医師の業務負担が大きくなり、検査技師も検体採取業務を行うこととなった。

【目的】

当院の発熱外来における検査件数の推移および、職種別の検体採取件数を集計し、検査技師の介入が発熱外来の運用にどのような影響を与えたのかを調べる。

【調査期間】

2020年9月から2022年12月における検査種類別の検査件数および職種別の検体採取件数を検査課内において集計したデータを用いて調査した。

【結果】

2022年1月よりオミクロン株の流行に伴い、外注PCRの件数が大幅に増加したが、検査技師の介入により、医師の負担を増やすことなく、検査件数を増加させることができた。検査技師が検体採取を行うことで、医師は診察や処方に専念することができ、患者の待ち時間短縮につながった。また看護師の検体採取補助業務も大幅に削減された。さらにクラスター発生時の一斉検査や入院前検査などの多くは検査技師が担っており、院内における感染拡大防止対策にも貢献できた。

【今後の展望】

現在、看護師が担っている電話連絡や問診、SpO₂の測定などの業務を一部の検査技師で試みている。今後、発熱外来患者がさらに増えることも予想されるため、メディカルスタッフの一員として、より多くの検査技師が発熱外来での業務を担えるようにしたい。

心臓カテーテル検査・治療における清潔野介助業務

～循環器内科医師とのタスクシェア～

診療技術部 臨床工学課 坂下広樹

[はじめに]

2024年4月より医師の時間外労働に対する上限規制が開始される。2019年10月より医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に関する検討会が発足され、臨床工学技士会でも議論がされている。個人としてのスキルアップや臨床工学課の業務拡大として、当院では2024年に向けて、心臓カテーテル検査（以下、CAG）及び治療（以下、PCI）の清潔野介助業務ができないか検討していた。2021年12月末に循環器内科医師（以下、MD）が4人から3人へ減少することが発表されたため、予定していた計画を早め、MD指導のもと2021年10月より清潔野介助業務を開始した。

[目的]

CAG及びPCIにおける清潔野介助業務を臨床工学技士（以下、CE）で代行し、循環器内科医師の業務負担軽減を図ること。

[経緯]

- 2021年10月 MD指導によるCAGの清潔野介助業務開始。
- 2021年12月 CAGにおいてMD補助なしで実施。PCIの清潔野介助業務開始。
- 2022年4月 予定PCIにおいてMD補助なしで実施。
- 2022年6月 緊急PCIにおいて清潔野介助業務の実施も循環器カンファで承認を得る。

[評価方法]

MDによる承認後、MDが清潔野介助業務をする場合（MD群）とCEが代行する場合（CE群）において、CAGとPCIそれぞれにおいて手技時間に変化があるか比較した。

[結果]

平均手技時間はCAGにおいてMD群20分、CE群20分で2群間での有意差なし。PCIにおいてMD群57分、CE群51分で2群間での有意差なし。

[考察]

CAGとPCIどちらにおいても手技時間に有意差がみられず、CEが清潔野介助業務を代行できていることが確認できた。

[結論]

当院ではCAG約100件/年、PCI約100件/年実施しており、1件あたりの手技時間はそれぞれ20分と約60分であった。CEが清潔野介助業務を実施することで年間130時間のMD業務負担軽減が見込まれる。今後は、従事可能なCEを増加させ、安定して清潔野介助業務に対応していく体制を構築していきたい。

【はじめに】

2022年4月より新体制として医療サービス課と庶務課からなる事務部が発足した。職員ひとり一人の力の大切さを認識し、人間性とやりがいを尊重して組織全体の力をアップしようと事務部一体となって業務に取り組んでいる。まず医療サービス課は医療事務、医師事務作業補助者、診療情報管理士からなり、それぞれが共同し、専門職という誇りを持ちながら病院を支えている。庶務課は施設管理や予算管理など庶務課業務の他に、職員が働きやすく円滑に業務がすすむよう院内外問わず調整を行い、縁の下の力持ちとしてなくてはならない存在である。2019年に発生した新型コロナウイルスの影響を受け通常の業務に加え、発熱外来・コロナワクチン業務等が増え業務の方向性も変化してきたと感じる。そこで事務部一体となったことを機会にお互いの力を利用し取り組むことができないかと考えた。

問題提起し業務改善につながる成果が得られた為、その取り組みについて報告する。

【取り組み】

- ・発熱外来の請求書発送業務
- ・新型コロナウイルスワクチン接種の名簿作成
- ・発熱外来PCR検査一覧表の作成
- ・発熱外来受付業務体制
- ・保健所による医療監視や厚生局による適時調査の対応業務

【結果】

今まではコピー&ペーストでリストや一覧表を作成していた為、かなりの時間や手間を要していた。請求書郵送業務では封筒の宛名と住所が違うというミスも生じた。間違いは病院の信用をなくすことにつながるため事務部で方法を考え、医事独自のシステムツールを作成し、宛名・住所が印刷された送付状を即座に作成できるようにした。また、封筒への転記作業がなくなり送付先間違いという事はなくなった。これらの集計・管理方法にした結果、大幅な時間短縮だけではなく送付先間違いや転記間違いなどの間違い防止につながった事が一番大きな効果だと思われる。さらに増大するコロナ対応を通して、発熱外来の受付体制を充実させた。多くの方が発熱外来を受診し、平日はもちろん休日の発熱外来の対応に人員を増加し互いに協力して業務にあたっている。

また医療監視や適時調査の対応業務では事務部一体となって携わる事ができた。今までは「医事」に密接に関係しているにも関わらず、自分たちの業務ではないという感覚でいたが、対応業務の中心を担うようになり、病院事務として診療報酬や施設基準だけではなく医療法などの知識も深められ、視野を広げる機会となった。医療サービスの提供を支えているという自覚を再確認し、病院経営に直接つながるためより丁寧な業務をこころがけていきたい。

以上を踏まえ、庶務・医事と一体化したことによって自分達の業務だけでなく、業務範囲の垣根をなくしお互いに協力体制を築くことができている。私たちの業務は病院の顔として支えているという自覚を持つことができ、また以前より業務に対して前向きにとらえることができた。自分自身が成長し「強い事務部・頼られる事務部」を目指してより一層励んでいきたい。

【はじめに】

北陸体力科学研究所では、小松市まちづくり市民財団からの業務委託により「こまつ子どもポーツ大学」を実施している。本事業は、より多くの子どもの運動機会を提供することと、運動能力向上を図ることを目的としており、事業前後には運動能力検査を行っている。今回は、令和2年から令和4年に実施した3年間の成果の一部を報告する。

【方法】

- 1.対象：小松市内認定こども園、保育園、幼稚園に通う年長児で事業に参加した110名（令和2年度：男児22名、女児18名、令和3年度：男児23名、女児17名、令和4年度：男児16名、女児14名）の内、運動検査を実施できなかった者を除く104名を対象とした。
- 2.事業内容：全10回、各回90分間の教室を開催した（内、第1回と第10回は運動能力検査を実施し、第2回から第9回は運動介入とした）。運動能力検査は、幼児運動能力研究会のMKS幼児運動能力検査の実施要綱に基づき、25m走／両足連続跳び越し／捕球／立ち幅跳び／体支持持続時間／ボール投げの6項目とした。運動介入は、リズム運動、柔軟運動を含む準備運動後、3グループに分かれ、走運動、跳運動、ボール運動の各項目をローテーションして行った。
- 3.分析項目：運動能力検査6項目について介入前後の比較を行い、その内「25m走」と「両足連続跳び越し」について考察した。

【結果】

運動能力検査6項目の内「25m走」においては、男女共に令和2年度、令和3年度は有意な上昇が認められなかった。令和4年度は、男女共に記録の向上が見られ、男児では有意差は認められなかったが、女児で有意差が認められた。「両足連続跳び越し」においては、男女共に全ての年度で有意に上昇した。

【考察】

全ての年度で有意に上昇した「両足連続跳び越し」については、教室全般において、体の連動性（使い方）を良くする動作を多く取り入れていたことが要因と考えられる。「25m走」においては、体の連動性だけではなく、ポイントを絞った運動経験が必要なのではとの仮説をたて、今年度、運動カリキュラムを見直した。教室2回目から5回目は、基本動作の習得に重点を置き、ピッチの向上、ストライドを広げる練習を反復して実施。教室8回目と9回目は会場全体を使い、走距離を伸ばして実施した。その結果、男女共に記録の向上が見られたと考えられる。

石川県のジュニアアスリートの見る力を知る

(公財)北陸体力科学研究所 運動指導員 木下直樹

【はじめに】

人が受ける情報の8割は視覚からと言われ、スポーツをするうえでも視覚は重要な要素である。しかし、石川県において、ジュニアアスリートのスポーツビジョンの測定やトレーニングは積極的に行われておらず、関心も薄い。そこで、石川県のジュニアアスリートに「見る力」について興味を持ってもらい、その力がどの程度なのかを明らかにすることを目的に測定、検証を行った。

【対象】

石川県内在住の部活動やクラブチームでスポーツをしている小学生～高校生(10歳～18歳)178人。競技の内訳は、野球70人、バドミントン68人、ソフトボール11人、ラグビー9人、バレーボール9人、他空手、レスリング、ボクシング、スキーが若干名ずつであった。

【方法】

測定前にアンケートと問診を実施。その後、①静止視力、②KVA 動体視力、③深視力、④目と手の協応動作、⑤瞬間視、⑥空間認識、⑦周辺部の感知力の7項目(以下①～⑦)を測定。それぞれ日本スポーツビジョン協会が定める測定方法に基づいて測定を行った。

【結果】

視力検査の結果がA判定(1.0以上)に満たない選手は全体の32%であり、矯正していながらもA判定に満たない選手は全体の12.3%だった。

静止視力と各スポーツビジョン測定との関係について、KVA 動体視力でのみ相関がみられた。

【まとめと今後の取り組み】

石川県のジュニアアスリートに対し「見る力」について興味を持てる機会を提供できた。正しく矯正できていない選手が多く、眼科への定期受診等の必要性があると考えられる。今後は競技特性やパフォーマンスとの関係を見ていくとともに、ビジョントレーニングの有用性を検討していく。また、「見る力」の重要性についての啓発も続けていきたい。

編集後記

2021・2022年度の年報がようやく完成の運びとなりました。2021・2022年度もコロナ禍が続き、感染予防対策やクラスター対応など体力的・精神的にも負担の大きい時期でした。学会参加や講演活動においても制限がありましたが、オンラインでの開催が増え、徐々に参加できる学術大会や講演会が増えてきたように感じます。日々変化していく状況の中、よりよい医療を届けたい、地域の皆様の健康に貢献したいという思いが途切れること無く、多くの論文や研究発表が行われたことを嬉しく思います。たくさんの思いが詰まった2年間の活動がこの一冊にまとめられました。ぜひ2021・2022年度の年報に目を通していただき、勝木グループ職員の熱意を感じとっていただければと思います。

最後になりましたが、年報作成にあたりお忙しい中、原稿をお寄せ頂いた皆様、研究に携わった全ての皆様、そして、原稿の収集等、協力いただいた学術・年報部門の委員に心から感謝申し上げます。

教育推進会議 学術・年報部門

やわたメディカルセンター 診療放射線技師 畑 耕子

2021・2022年度 勝木グループ年報誌

発行日● 2023年11月30日

編集● 教育推進会議分科会 学術年報部門

委員長 池永康規

委員 加藤真文 北本淳志 城戸内有紀 田中咲帆 田中那奈 谷口美幸

中崎衣美 根上剛 畑耕子 古河丈治

制作● 木場フォーム印刷株式会社



特定医療法人社団 **勝木会**

やわたメディカルセンター

やわた健診センター

やわた健康スタジオ

健康スタジオ 加賀温泉駅前

ヘルパーステーションやわた

やわた居宅介護支援事業所

芦城クリニック

芦城クリニック健康スタジオ

丸内・芦城高齢者総合相談センター

健康増進センター アエール芦城

訪問看護ステーション リハケア芦城

公益財団法人 **北陸体力科学研究所**

スポーツコミュニティダイナミック

やわた倶楽部

指定管理施設

いしかわ総合スポーツセンター

運営受託施設

ダイナミックHakusan